

内	金何程	第一期分
内	金何程	第二期分
内	金何程	第三期分
内	金何程	第四期分

地租第一期又ハ第三期ニ係
ル不納稅處分ノ末土地官沒
ノ此内書ヲ用ユ

是ハ何々全ニ付成規ノ通處分候處買受望人ナク又ハ公賣代價不相當ニヨリ該財產ヲ官
沒セシニ付不納金全額官捐相成度分
右官損ノ義御聽許相成度此段稟申候也

年月日

大藏卿宛

第五十五號 明治十六年
八月 達

府知事縣令姓名印

租稅不納ノ者財產公賣處分ノ末官捐トナルヘキ金額或ハ納期ニ際シ失踪等ニテ勘定除却ヲ
要スル金額ハ全管取束手左ノ書式ニ倣ヒ調理シ毎稅納期後四十五日以内ニ可致稟申候事

(大)第三十五號 明治十八年六
月十三日達

明治十六年九月第五十九號達中公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ「下」右期限後四十五日以内」
ノ十字ヲ 該稅決算期限ノ十一字ニ改ム

第五十九號 明治十六年九
月 達

諸營業免許ノ者納稅期限前旅行又ハ失踪シ右期限ヲ過キ歸籍セス税金不納ノモノハ明治
十一年當省乙第七號達第六項ニ據リ處分スヘキノ處其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分
ヲ爲ス能ハサルモノハ「右期限後四十五日以内」ニ一旦勘定除却ノ義稟申シ他日本人歸籍
又ハ所在發見シタル毎期ニ係ル不納稅ヲ追徵候義ト可心得事

但當初勘定除却ノ後三ヶ年ヲ移過シ尙完結セサルハ其際更ニ處分方稟申スヘシ

○預金規則 明治十八年五月二十日
第十三號布告

第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム

第一 驛遞局貯金

第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三 社寺教會會社其他人民ノ共用ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ

第二條 預金取扱手續ハ大藏卿之ヲ定ム

〔預金規則〕

第三條 預金利息割合ハ大藏卿之ヲ定ム

第四條 預金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス

第五條 預金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス

第六條 預金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス

第七條 大藏卿ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第八條 預金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○第二十四號 明治十八年五月三十日達

各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金ハ第十三號布告ニ據リ渾テ其官廳ノ名義ヲ以テ大藏省預金局ヘ預ケ入ルヘキ事

但取扱手續等ノ儀ハ大藏省ヘ協議スヘシ

(大)第二十八號 明治十八年六月四日達

今般預金規則制定且本年第二十四號公達相成候ニ就テハ成規ニ從タル積立金ハ勿論利殖ノ爲メ預リ其損失ヲ官ニ負擔スヘキモノハ渾テ預金局ヘ預入ルヘキ儀ニ付其金員等取調至急申出ヘキ事

(大)第八十八號 明治十八年六月八日告示

本年五月第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續左ノ通相定ム

但執行日限及利子割合ハ遐テ新聞紙ヲ以テ廣告ス

第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局地方ハ國庫金取扱所後國庫金取扱所ヲ除クニ於テ取扱フモノトス

第二條 預ケ金ヲ分チテ通常定期ノ二種トス

第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラス拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月トス

第四條 通常預金ヲ始メテ預ケ入ルキハ申込書第一式及印鑑二枚ヲ其預リ所東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所ヲ云フニ差出スヘシ

第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取リ預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受クヘシ

第六條 預金局ヘ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナスキハ請求書第二式通帳ヲ添ヘ預金局ヘ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ

第七條 各地國庫金取扱所ヘ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナスキハ請求書第二式其取扱所ヲ

(預金規則、同取扱手續)

經テ預金局へ差出スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求書ヲ受ケタルキハ拂戻證書^{第三式}ヲ其請求人へ送達スヘシ
請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ
第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ若シ期日ヲ失スルキハ取扱所ヲ經テ更ニ預金局へ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ 但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

百里未滿

二十日

東京ヨリ

三十日

二百里以外

四十日

第十條 通常預金ノ金額ヲ拂戻スルキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スルキハ預リ所ニ於テ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ印主務者ノ調印ヲナシ之ヲ返付スヘシ
第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ付セス但預リ所へ預ケ入タル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月^{東京ハ出納局仕拂切ヲ以テ拂戻シ月トス}

第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分チ之ヲ其元金ニ組入ルヘシ

第十三條 預ケ主ハ毎年三月九月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利子ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預リ金ノ金額ヲ拂戻スルキニアラサレハ之ヲ受取ヲ得ス

第十五條 一ノ預リ所ヨリ請取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入レ拂戻ヲナスコトヲ得ス

第十六條 預金通帳ハ預金受授ノ證トス

第十七條 定期預ケ金ヲナスキハ申込書^{第四式}及印鑑二枚ヲ預リ所ニ差出シ其金員ヲ預入レ

定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ

第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルキハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額受取ノ記入ヲナシ記名調印ノ上之ト引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ

第十九條 定期預ケ金ヲ引續キ預ケ入ルトキハ更ニ期限等ヲ認メタル申込書ヲ左ノ日割ニ據リ其預リ所ニ差出シ置キ滿期ニ至リ新舊證書ノ引替ヲナスヘシ

百里未滿ハ滿期ヨリ三十日前

東京ヨリ

二百里未滿ハ滿期ヨリ四十日前

〔預金規則、全取扱手續〕

二百里以外ハ滿期ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ滿期當日迄日歩割ヲ以テ計算スルモノトス

第二十一條 金銀貨ヲ預ケ入レ同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ハ定期預ケ金ニ限ルモノトス

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第二十三條 預ケ金ヲ直ニ預金局ニ預ケ入ルキハ出納局ヘ現金ヲ納付シ全局ノ領收證書ヲ以テ預ケ入ルモノトシ又拂戻ヲナスルハ預金局ヨリ出納局仕拂切符ヲ以テ拂渡スモノトス

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預ケ金ハ其報告ニ依リ預金局ノ帳簿ニ登記シ全局ヨリ帳記濟ノ通知書ヲ其預ケ主ヘ送付ス可シ

第二十五條 國庫金取扱所ヘ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通知書到達セサルトキハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達セシモ金員年月日ニ相違アルルハ到達ノ翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認メタル通知書ヲ預金局ヘ發送スヘシ

百里未滿

二十日

東京ヨリ二百里未滿

三十日

二百里以外

五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第二十七條 預ケ入申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又二人以上ノ共同ニ係ルモノハ其總代人一名記名調印シ且共同社中ノ一名記名加印スヘシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做シ又共同ニ係ル預ケ金ハ其總代ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做スヘシ

第二十九條 社寺教會々社並其擔當者及共有預ケ金ノ總代人並加印者氏名變換又ハ轉住セシキハ其屆書ヲ預リ所ニ差出スヘシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルルハ後任者ノ印鑑二枚ヲ添ヘ連署ノ屆書ヲ預リ所ヘ差出スヘシ

但前任者連署シ能ハサルルハ證人ヲ立ツヘシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシキ或ハ汚染毀傷シテ文字印章判明ナラサルルハ其事由ヲ詳記セシ屆書ヲ預リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナスヘシ
但通帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ爾後發

〔預金規則(全取扱手續)〕

見セシハ之ヲ預リ所へ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金証書ハ大藏省官員ヨリ検査照合等ヲ要スルコトアルヘシ

但該官員臨檢ヲナスルハ其證據書ヲ携帯スルモノトス

(第壹書式) 用紙美濃紙

通常預ケ金申込書

何神社 何教會 何會社 何々金預ケ入仕度尤モ御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日 社等教會々社ナルハ此例ニ倣フヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
何神社(何寺)(何教會)(何會社)印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
擔當者

氏名印

共有預ケ金ナルハ此例ニ倣フヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地

共有金總代人

氏名印

肩書全上

加印者氏名印

預金局長

官氏名殿

(第二書式) 用紙美濃紙

預ケ金拂戻請求書

何神社 何教會 何會社 何々金 (元利息皆ノ内金何程) 御拂戻被下度候也

明治何年何月何日

預金局長

官氏名殿

(預ケ人氏名住所等ノ記) 此方第一書式ニ全シ

(預金規則、全取扱手續)

(第三書式)

千百四十

番 號	第 何 號	先 渡	何 社 社 (何 寺) (何 教 會) (何 會 社) (共 有 人 氏 名)
通帳番記號	第 何 號		
預金拂戻證書			
一金何程也	内金何程也	元金	利子
右金額此證書引替ニ可相渡候也			
明治何年何月何日	何府(縣)	預金局長	官 氏 名 印
	何地	國庫金取扱所	
甲 號			
前書金額正ニ請取候也			
<small>(何神社(何寺)(何教會)(社)寺教會々社ハ其名) (何會社(何々共有金)(冊ノ下ニ其印ヲ捺ス))</small>			

明治何年何月何日

總代人(擔當者)

氏 名 印

加印者

氏 名 印

甲號拂戻證書裏面記載文

- 一 拂戻金ヲ請取ルルハ此證書表面請取證欄内ニ記名調印チナシ
- 一 國庫金取扱所へ差出シ之ト引替ニ拂戻金ヲ請取ルヘシ
- 一 此證書ヲ以テ拂戻金引替チナスハ表面ノ日附ヨリ左ノ期日迄トス
 - 百里未滿 二十日
 - 東京ヨリ 二百里未滿 三十日
 - 二百里以外 四十日
- 一 右ノ引替期日ヲ失シタルカ又ハ此證書ヲ失亡セシルハ國庫取扱所ヲ經テ預金局へ申出代リ證書ヲ請求スヘシ

(第四書式)用紙美濃紙

[預金規則(全取扱手續)]

千百四十一

定期預ケ金申込書

一金何程也

右金員何年何月何日迄預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日

預金局長

官氏名殿

(預ケ人氏名住所等ノ記)
職方第一書式ニ同シ

(大)第二十八號 明治十八年六月

月四日達

今般預金規則制定且本年第廿四號公達相成候ニ就テハ成規ニ從タル積立金ハ勿論利殖ノ爲メ預リ其損失ヲ官ニ負擔スヘキモノハ渾テ預金局へ預ケ入ルヘキ儀ニ付其金員等取調至急申出ヘキ事

●滋賀縣ヨリ預金規則ノ義ニ付大藏省へ伺 明治十八年六月十二日

本年第十三號公布ヲ以テ預金規則制定相成次テ第廿四號公達貴省第廿八號御達ニ付左ノ件々御指揮相仰度

第一 規則第一條第二項ニ該當スル積立金本縣ニ在リテハ備荒儲蓄金巡查積立金ノ類ニシテ備荒儲蓄金ハ目今可預入分無之候得共漸次徵收スル金額へ追テ預入方可取計候巡查

積立金ノ義ハ素ヨリ利殖ノ爲メ積立ノ方法ニ非ラス且時々出納煩繁ナルモノニ付該項ニ據リ預金局へ可預入限ニ無之候哉

第二 同條第三項請願積立金ノ儀曾テ社寺其他ヨリ縣廳へ管護方請願ニ因リ利殖預ケトナシ有之分則チ同項ニ該當スル如ク相見候處貴省第廿八號御達文中利殖ノ爲メ預リ其損失ヲ官ニ負擔スヘキ者ハ渾テ預金局へ預ケ入ルヘキ云々トアルヲ以テ考フレハ請願積立金ハ渾テ同局へ可預入御主趣ニハ無之唯々其損益關係アル部分ニ限り必ス可預入精神ニ候哉疑義ニ亘リ候ニ付從來本縣ニ於ケル請願積立金ヲ左ニ概陳シ以テ其範圍ノ内外ヲ識別致シ度

一預金種類 社寺へ内庫御納付金内務省下賜金信仰者寄附金並工費又ハ開墾資トシテ貸下金等管護利殖ノ爲メ縣廳へ預金ノ類

一利殖方法 右ノ金圓管下銀行又ハ身柄ノ者へ相當ノ抵當ヲ徵シ目下利割月七厘乃至年八歩ニテ貸下或ハ毎六ヶ月利割ヲ改約スル分モ有其旨金主へ報道シ置而シテ每半季利子ヲ取立金主へ交付スルアリ又ハ每半季元金へ結込漸次利倍スルアリ

一返還期限 利倍ノ方法ニテ預ケタルモノハ證書通帳トナシ付込期限五ケ年乃至十ケ年トシ渾テ無期限ニテ臨時入用アレハ十五日間又ハ一ヶ月前ニ通知納メノ約定ニ有之

(預金規則、何指令)

候

一損益關係 右ノ約定ニテ貸下而シテ利割ノ高低ハ勿論金主へ時々報道スルモノニテ損失ヲ官ニ負擔スヘキ結約等ハ無之候

右ノ性質ナルニ因リ預金局へ可預入限ニ無之哉若必ス可預入モノトセハ同局利割他ニ比較萬一低下ナルハ金主迷惑ヲ訴ルモ難計然ルキハ返還セサルヲ得サル次第ニテ隨テ監護上難行届如何可取計哉

第三 渾テ預金局へ可預入金員等取調至急可申出旨貴省第廿八號御達ノ處右第一第二兩項御指揮相成候上ニ無之テハ調整難致ニ付暫時延期御聞届相成度候

第四 預金取扱手續ハ退テ御達示可相成哉否サレハ御省條定ノ手續致承知度尤出納ハ預金局出張所又ハ其取扱所等へ直接照會何時ニテモ元利金ノ預ケ入及請取方出來可申哉

第五 利子ノ割合ハ土地ノ都鄙及世上時々金融ノ便否且預金種類等ニ據リ高低可有之候乎若シ一定ノ利割ニ候ハ、豫テ致承知度

第六 利子ハ每半季請取候トモ元金へ結込積立候ニ隨意ニ可相成哉且中途ニシテ元利金預ケ人又ハ請取候節ハ十五日前後ヲ以テ區分シ其月以後又ハ其月迄ノ利子ヲ付セラルヘキ哉

指令 明治十八年七月廿七日

預金規則ノ義ニ付會甲第一二七號ヲ以テ稟中之趣右ノ通可相心得事

第一項 備荒儲蓄金ハ預金規則第一條第二項ニ屬セス巡查積金ノ義ハ同項ノ範圍内ニ屬スル義ト心得ヘシ

但諸蓄金ハ縣會ノ決議ニ依リ便宜預ケ入ノ義ハ苦カラス

第二項 預金規則第一條第三項請願積立金トハ社寺會社等ヨリ其請願ニ依リ直ニ預金局へ預ケ入ルモノヲ云フ尤人民ノ請願ニ依リ縣廳ニ預リ之ヲ保管利殖スルモノハ渾テ縣應ヨリ預金局へ預ケ入ルヘキ義ト心得ヘシ

第三項 前二項ノ通相心得至急金員取調申出ヘシ

第四項 預金規則第一條第二項取扱手續ハ別冊ノ通心得ヘシ
但右ニ準據シ難キ廉ハ預金局ニ協議スヘシ

第五項 利子割合ノ義ハ本年六月十二日第百八十三號官報當省廣告ノ通但巡查積金ノ如キ數口ヲ集合セルモノハ特ニ預金局へ協議スヘシ

第六項 利子請取方ハ別冊ノ通 (別冊略ス)

愛知縣ヨリ預金規則ニ據リ預金局へ預ケ金ノ儀ニ付大藏省へ伺 明治十八年六月廿四日

(預金規則、何指令)

今般預金規則ヲ制定セラレ且本年第廿四號公達ノ旨モ有之ニ依リ本月六日御省第廿八號ヲ以テ其積立金等取調至急申出ヘキ旨御達有之候處從來當縣ニ於テ施行致サセ來候巡査積金ノ義ハ尤之カ收支ノ手續ハ其時々ヲ要スルモノナレハ是等ノモノハ素ヨリ預金局ヘ預ケ入ル、ノ限ニ無之モノト相心得可然哉

指令 明治十八年七月七日

同之趣預金規則第一條第二項ニ據リ預金局ヘ預ケ入候儀ト可心得事但受渡手續等ノ儀ハ預金局ヘ協議スヘシ

○預リ米取扱手續 明治十八年八月十日 (大)第五十二號達

明治十年^{十一}當省乙第三十九號達預リ米取扱手續左ノ通改正候事

但明治十二年^九當省乙第三十五號達ハ廢止ス

- 第一條 預リ米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシテ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納ヲ許可スルハ其員額ニ對スル分ハ預リ米ヲ許可セス
- 第二條 預リ米ハ十一月二十日迄ニ願出テタル者ニ限り許可スヘシ
- 第三條 預リ米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時ニ限ルヘシ
- 第四條 時價ヲ算出スルハ管内ヲ適宜ニ區分シ相場立ノ個所ヲ定メ置キ該年十月十二日ヨ

リ十一月十日マテノ間其地ノ上米平均相場ヲ用フヘシ但區畫及其相場立個所ハ豫メ主税局ヘ届出ヘシ

第五條 預リ米ハ前項ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ一割ヲ加ヘタルモノヲ藏置セシムヘシ

第六條 俵拵並俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス

第七條 預リ米ヲ藏置スヘキ場所ハ府縣廳ニ於テ各町村預ケ高ノ多寡ヲ豫算シ一郡内適宜ニ指定シ集蓄セシムヘシ 但藏敷及看守人給料其他一切ノ費用ハ預ケ人ノ負担トス

第八條 歲入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏^總長預ケ主立會封印スヘシ但郡吏ハ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限内ニ完了スヘシ

第九條 預リ米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサルハ郡吏長立會其期ニ當ル預リ米ヲ競賣スヘシ

一第三期預リ米 三月十五日限

一第五期預リ米 四月二十日限

一第六期預リ米 五月十五日限

第十條 前項競賣代金税額ニ滿マサルハ直チニ其不足金ヲ徵收ス若シ納メサルハ一般

〔預リ米取扱手續〕

ノ租税不納金處分規則ニ據リ處分スヘシ

第十一條 預ケ主ニ於テ預リ米ヲ賣却センコトヲ請フモノアルハ其時々之ヲ許シ各立會賣却ノ上其代金ハ直チニ收入シ藏出セシムヘシ

第十二條 預リ中水火盜難又ハ欠減等ニ罹リ損失ヲ生スルコアルモ預主ニ於テ補償ノ責ニ任スヘシ

第十三條 預リ米アル地所他ノ事故ニ因リ公賣ノ處分ニ係ルキハ其預リ米アルニ拘ラス當期ノ税金ヲ完納セシムヘシ但此場合ニ於テハ預リ米ヲ還付スヘシ

第十四條 預リ米ヲ許可スルニ方リテハ前二項ニ開示セル條件ヲ承諾セシメ請書ヲ領收スヘシ

第十五條 許可シタル預リ米ノ員額及其金額ハ一郡役所限リ取調十二月十五日迄ニ主税局ヘ届出ツ可シ

(大)乙第三拾五號 明治十二年九月十九日達

明治十年^{十一月}當省乙第三拾九號ヲ以テ田方地稅預リ米ノ義相達置候處自今地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ節ニ限リ聞届候義ト可相心得事

第三章

教育社寺戶籍ノ部

○教育令 明治十八年八月十二日 第廿三號布告

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校教場幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校其他各種ノ學校トス

第三條 小學校及ヒ小學教場ハ兒童ニ普通ノ教育ヲ施ス所トス

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ法科理科醫科文科農業商業職工等各科ノ學業ヲ授クル所トス

第八條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ル

ヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校又ハ小學教場ヲ設置スヘシ

但本文小學校又ハ小學教場ニ代ルヘキ私立小學校又ハ小學教場アリテ府知事縣令認可ヲ經タルハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

〔教育令〕

第九條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トス

第十條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十一條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ普通科ヲ卒業ラサル間己ムヲ得サル事故アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 小學校及小學教場ノ學期ハ三箇年以上八ケ年以下タルヘク授業日數ハ毎年三十

二週日以上タルヘシ其授業時間ハ一日三時ヨリ少カラヌ六時ヨリ多カラサルモノトス

但土地ノ情況ニ依リ午前若クハ午後ノ半日又ハ夜間ニ授業スルコトヲ得ヘシ其授業時間ハ二時ヨリ少カラサルモノトス

第十三條 小學校若クハ小學教場ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ施サントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 學齡兒童ヲ小學校若クハ小學教場ニ入レス又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ施サントスルモノハ戶長ノ認可ヲ經ヘシ

但戶長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校若クハ小學教場ニ於テ試験セシムヘシ

第十五條 學校教場幼稚園圖書館等ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設

置セルモノヲ公立トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立トス

第十六條 公立學校教場幼稚園圖書館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十七條 私立學校教場幼稚園圖書館等ノ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校又ハ小學教場ニ代用スル私立小學校又ハ小學教場ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十八條 町村立私立學校教場幼稚園圖書館等設置變更廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 小學校及小學教場ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

中學校其他ノ學校ノ教則ハ文部卿其綱領ヲ頒布スルコトアルヘシ

第二十條 公立學校教場ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村ノ協議ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十一條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校教場ニ於テ補助チ地方稅ニ要スルキハ府縣會

ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルヲ得ヘシ

第二十二條 公立學校教場ノ敷地ハ免稅タルヘシ

第二十三條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルヲ得ヘシ

第二十四條 各府縣ハ小學教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第二十五條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上ニシテ品行端正相當ノ學力アリ文部卿若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第二十六條 文部卿ハ吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムルヲアルヘシ

第二十七條 凡學校ニ於テハ男女教室ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校及小學教場ニ於テハ男女教室ヲ同クスルモ妨ケナシ

第二十八條 生徒試驗ノトキハ父母或ハ後見人等來觀スルヲ得ヘシ

○府縣選舉師範生徒募集規則 明治十六年四月 (文)第六號達

第一條 府縣ニ於テハ小學校中學校教員ノ善良ナル者ヲ養成シ以テ普通教育ノ改良ヲ圖ラシカ爲メニ生徒ヲ選擇シテ公費ヲ給シ務テ文部省直轄東京師範學校ニ入學セシムヘシ之ヲ府縣選舉師範生徒トス

但區町村等ニ於テ其公費ヲ以テ入學セシメントハ願フモハ府知事縣令ニ於テ調査ノ上之ヲ許スモ妨ケナシ

第二條 生徒ノ員數入學期限試驗科目試驗期日等ハ募集ノ前ニ東京師範學校長ヨリ府縣ニ通報スヘシ

第三條 生徒ハ其府縣内ニ住居ヲ定メ且左ノ各款ニ該當スル者タルヘシ

一 年齢 十七年以上二十二年以下ノ者

一 身體 強健ニシテ在學中家事ニ係累ナキ者

一 志望 該府縣ニ於テ小學校若クハ中學校ノ教育ニ從事センコトヲ欲スル者

一 品行 端正ナル者

一 學力 小學師範學科ヲ修メント欲スル者ハ小學高等科卒業以上ノ者若クハ之ニ適應スヘキ學力ヲ有スル者

中學師範學科ヲ修メント欲スルモノハ初等中學科卒業以上ノ者若クハ之ニ適應スヘキ學力ヲ有スル者

第四條 試驗期日前ニ東京師範學校長ハ嚮ニ府縣ニ通報シタル試驗ノ各科目ニ就テ問題ヲ作り之ヲ府縣ニ回送スヘシ

【府縣選舉師範生徒募集規則】

第五條 府縣ニ於テ東京師範學校長ヨリ廻送シタル問題ニ由テ試験ヲ實施シ及ヒ醫員ヲシテ體格ヲ検査セシメ試験後直ニ試験答紙並ニ醫員ノ検査書ヲ東京師範學校ニ送致スヘシ
東京師範學校ニ於テハ該書類ヲ査定シ合格ノ者ヲ府縣ニ通報スルモノトス

第六條 生徒ハ總テ當分試験生トナシ而後本級ニ編入スルモノトス

但學力等不充分ニシテ到底本級ニ編入スル能ハサル者ハ退學セシムルコアルヘシ

第七條 生徒ハ總テ該學校内ニ寄宿セシメ校則ヲ遵守セシムヘシ

第八條 生徒ノ學費ハ府縣教育費等ヨリ支辨スヘシ其額ハ東京師範學校ノ官費生ト同一ニシテ一人一ヶ月凡ク金六圓ヲ要ス

但時宜ニ依リ官費ヲ給スルコアルヘシ

第九條 生徒往返ノ旅費ハ府縣教育費等ヨリ便宜之ヲ支辨スヘシ

第十條 生徒ノ規約等ハ府知事縣令之ヲ定メテ文部卿ニ開申スヘシ

但規約ハ卒業ノ後該府縣小學校若クハ中學校ノ教育ニ從事セシムル等ノ旨趣ヲ掲クヘシ

(文)第四號 明治十八年一月三十一日達

府縣ニ於テ女兒小學校教員ノ善良ナル者ヲ養成センカ爲メニ女子生徒ヲ選擇シテ東京女子師範學校ニ入學セシメントスルキハ當省明治十六年四月第六號達府縣選舉師範生徒募集規則

ニ準據スヘシ

○中學校通則

但本文規則第三條中學齡學力等ノ義ハ募集ノ都度東京女子師範學校長ヨリ通報スヘシ
明治十七年一月廿六日 (文)第二號達

第一條 中學校ハ此通則ニ遵ヒテ之ヲ設置シ中人以上ノ業務ニ就ク者若クハ高等ノ學校ニ入ル者ノ爲メニ忠孝華倫ノ道ヲ本トシテ高等ノ普通學科ヲ授クヘキモノトス

第二條 中學校ノ教則ハ文部省明治十四年七月第二十八號達中學校教則大綱ニ據ルヘキモノトス

第三條 中學校長ハ品行端正ニシテ學校管理ノ任ニ堪フヘキ學力材幹アル者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス

第四條 中學校ハ教員中少クトモ三人ハ中學師範學科ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ハ文部卿ノ認可ヲ經テ之ニ代フルコトヲ得且中等學科ヲ置カスシテ農業商業等ノ專修科ヲ置キ又ハ初等中學科ノミヲ置クモノハ文部卿ノ許可ヲ經テ本文ノ制限ヲ斟酌スルコトヲ得

第五條 中學校ハ修身其他諸科ノ教授上必須ノ圖書及博物、物理、化學等ノ器械標本類ヲ備フヘキモノトス

第六條 中學校ハ生徒ヲ教授スルニ足ルヘキ教場物理化學ノ試驗室體操場及生徒ノ扣所職員ノ詰所等ヲ設クヘキモノトス但生徒ヲ寄宿セシムルモノハ寄宿舎ヲ設クヘキモノトス
第七條 中學校ノ經費トシテ供給スヘキ金額ハ前條々ノ準備ヲ辨スルニ足ルヘキモノトス
第八條 中學校設置廢止等ノ手續其府縣立ニ係ルモノハ文部省明治十四年一月第四號達府縣立學校等設置廢止規則ニ據ルヘク其町村立私立ニ係ルモノハ該府縣ノ町村立私立學校等設置廢止規則ニ據ルヘキモノトス

(文)第三號 明治十七年二月十五日達

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不勘候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計フヘク候事

(文)第七號 明治十八年八月十九日達

自今府縣立學校ニ於テ授業料ヲ徵收スヘキモノトス其額及徵收方法等ハ當省ヘ伺出ヘク候事

(文)第八號 明治十八年八月十九日達

自今町村立學校ニ於テハ授業料ヲ徵收セシムヘキモノトス其額及徵收ノ方法等ハ府知事縣令ニ於テ其程度ヲ取調ヘ當省ヘ伺出候事

(文)第二號

明治十八年十一月九日達

小學教場ハ小學校ヨリ簡易ナル教則ヲ以テ普通科ヲ教授スル所ニシテ左ノ情况アル場合ニ之ヲ設置スヘキ儀ト心得ヘク候事

一 半日又ハ夜間ニ非サレハ就學スルヲ能ハサル兒童多數ナリト認ムル場合

一 授業料ヲ納ムルコト能ハサル兒童多數ナリト認ムル場合

一 小學校ヲ設置スルニ資力不足ナリト認ムル場合

(文)第十三號 明治十八年十一月十八日達

今般體育ノ改良就中兵式體操實施方準備ノ爲メ當省所轄體操傳習所ニ於テ兵式體操及輕體操ノ教員タルヘキ者ヲ教養シ卒業ノ後ハ主トシテ府縣立學校ノ體操教員ヲラシムヘキ筈ニ候條右卒業者ヲ採用セントスル向ハ左ノ要領ニ照シ其俸額ヲ具シ來十二月二十日迄ニ當省ヘ可申出候事

第一 體操ノ改良就中兵式體操實施準備ノ爲メ文部省所轄體操傳習所ニ於テ修業員ヲ召募シ凡ソ四ヶ月ヲ期トシテ兵式體操及輕體操ニ關スル學術並ニ其教授法ヲ傳習シ體操教員タルヘキ者ヲ養成スル事

第二 修業員ハ二十五名ヲ限リ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ召募シ來明治十九年一月二十

〔中學體操則〕

日ナ期ニ體操傳習所ニ入ラシムル事

一陸軍歩兵下士ニシテ常備現役ヲ離レ一ケ年以内ノ者

但從軍ノ實歴アル者等ハ本文ノ期限ヲ超過スルモ採用スルコトアルヘシ

一品行端正ニシテ精神氣力ノ體操教員タルニ適スル者

一體格正整身體強健ニシテ身長五尺二寸以上ノ者

一年齡三十五年以下ノ者

第三 修業員在學中ハ毎月手當トシテ一人ニ付金十圓ヲ支給シ學費ヲ辨セシムル事

第四 修業員卒業ノ上ハ文部省ヨリ指定スル府縣廳ノ命ニ遵ヒ其學校ノ體操教員ニ奉職セ

シメ當初三ケ年間ハ其本官陸軍歩兵下士ノ職務ニ係ルノ外如何様ノ事故アルモ辭職スルヲ得サ

ラシムル事

但本文年限内ノ身分取扱ハ本管陸軍歩兵下士ニ據リ又其月俸額ハ學業ノ優劣ニ應シテ等差五

圓以上二十ニ付スヘシ

第五 修業員在學中及就職ノ上怠惰又ハ不品行等ニ因リ其任ニ堪ヘサルトキハ成規ニ照シ

相當ノ處分ヲナシ其修業中又ハ教員ヲ罷免スル場合ニ於テハ在學中支給セシ手當金ヲ悉

皆償還セシムル事

○學事年報取調條項

明治十八年十二月三日(文)第十四號達

學事年報取調條項並諸表樣式自今左ノ通相定候條曆年ノ調査ニ據リ翌年三月限各二通可差出候事

但諸表樣式ハ當省報告局ヨリ送付スヘシ

一管内學事ノ狀況 學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ

一學區 區畫變更ノ緣由、廣狹適否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一學齡兒童就學 就學兒童増減ノ狀況及就學督實實施ノ難易其他學齡就學ニ係ル總テノ狀況方法等ヲ記載スヘシ

一小學校公私立學校教場新設廢止ノ緣由、諸般ノ準備生徒増減ノ狀況其他父兄ノ職業ニ關シ在學ノ長短學業進否ノ趣ヲ異ニスル等ノ事項ヲ記載スヘシ

一中學校高等女學校 公私立學校新設廢止ノ緣由、教員ノ資格、生徒ノ増減及學業ノ進歩等級人員ノ區別ハ可及的精密ヲ要ス生徒卒業後ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一師範學校附小學 教員ノ資格生徒ノ増減學業進歩ノ狀況前シ及小學教員需用供給ノ關係並教員講習所ノ設置、小學督業ノ配當其他授業法ノ改良ニ係ル方法等ヲ記載スヘシ

一專門學校 學校新設廢止ノ緣由、教授ノ要旨、教員ノ資格、生徒ノ増減學業ノ進歩前シ其他

〔學事年報取調條項〕

- 該學藝ニ關スル教育ノ現狀ヲ觀察スルニ足ルノ條項ヲ記載スヘシ
- 一各種學校 學校設置廢止ノ緣由、教授ノ要旨、教員ノ學力、生徒ノ増減學業進歩ノ狀況等ヲ記載スヘシ
- 一教科用圖書 教科用圖書ノ適否、需用供給ノ關係等凡ソ教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ
- 一幼稚園 幼稚園ノ現況及學齡未滿幼兒ノ保育ニ係ル方法狀況等ヲ記載スヘシ
- 一書籍館及教育博物館 書籍館及教育博物館ノ現況並將來設置ノ方法其他閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ
- 一公學資 府縣立町村立學校等經濟ノ要領、收支ノ方法、費金ノ豐饒、學校資財増減ノ緣由、學資蓄積及授業料徴收ノ方法現況等總テ學校維持並理財上ノ得失ニ係ル事項ヲ記載スヘシ
- 一教育會組織并議事檢概ヲ記載スヘシ
- 一府縣會及區町村會 教育費ニ係ル議事ノ便概ヲ記載スヘシ
- 一學事關係職員 學務課處務ノ要旨、學務擔任郡區吏戶長等凡ソ學務關係職員事務ヲ措辨スル總テノ狀況及方法等ヲ記載スヘシ
- 一學事監督及獎勵 學務官吏巡視監督ノ狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ

一將來學事設上須要ノ件

- 一其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ
- (文)第十六號 明治十八年十月十一日達
- 公立小學校ニ於テ修業期限一ケ年ヲ以テ一學級トスヘシ
- 但特ニ修業期限半ケ年ヲ以テ一學級トセントスルハ事由ヲ具シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ
- (文)第十七號 明治十八年十月十二日達
- 私立小學ニ於テハ修業期限一ケ年若クハ半ケ年ヲ以テ一學級ト定メ府知事縣令ノ認可ヲ經シムヘシ
- (文)第十八號 明治十八年十月十四日達
- 當省本年第十四號ヲ以テ學事年報取調條項並諸表樣式相達候ニ付テハ明治十四年第十號達學事表簿樣式ノ義ハ右年報調査上要用ノ外ハ適宜斟酌施行スヘシ
- 學校教員品行檢定規則 明治十四年七月 (文)第廿六號達
- 第一條 學校教員ノ品行ハ左ノ一欸若クハ數欸ニ觸ル、者ヲ以テ品行不正ト認ムヘシ
- 第一欸 舊法ニ據リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖鋼ノ刑ヲ受ケル者

〔學校教員品行檢定規則〕

但贖金罰金ヲ納ムル能ハスシテ本文ノ刑ニ處セラレタルモノハ此限ニアラス

第二款 前款ノ刑ヲ受ケ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サル者

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

第四款 荒鹵暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル汚行アル者

第五款 新法ニヨリ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタル者

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルヲ能ハスシテ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノハ此限ニアラス

第六款 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

第二條 第一條ノ一款若クハ數款ニ觸ル、者ハ學校教員ノ職ニ就カシムルヲ得又就職ノ後ト雖モ其職ヲ停罷スヘキモノトス

但本文ノ場合ニ於テハ本人有スル處ノ師範學校卒業證書教員免許狀ヲ沒收スヘシ

第三條 品行不正ト認メ學校教員ノ職ニ就クヲ許サ、リシ者及其職ヲ停罷シタル者アルキハ府知事縣令ヨリ其族籍姓名并ニ事由ヲ具シテ文部卿ニ開申スヘシ

第四條 第一條ノ一款若クハ數款ニ觸ル、者ト雖モ府知事縣令ニ於テ特ニ學校教員マラシ

メントスルキハ其族籍姓名并ニ事由ヲ具シテ文部卿ニ伺出ヘシ

(文)第九號 明治十六年 五月達

當省明治十四年^七月第廿六號達學校教員品行檢定規則ノ義ハ學校長ヘモ適用可致候事

(文)第二號 明治十八年 一月達

公私立學校生徒ニシテ多衆集合シ躁暴危險若クハ奇異ノ行為有之候テハ教育上不都合ニ候條右様ノ義無之様其學校ニ於テ嚴敷取締可致尤モ運動等ノ爲メ集合スルキハ學校ノ教員等ヲシテ監視セシムヘク候事

(文)第十八號 明治十六年 十一月達

當省直轄官立學校學生々徒及公立學校生徒中不都合ノ行為アリテ退學セシメタル者ハ其情狀ニ因リ當省直轄官立學校及府縣公立私立ノ學校ニ入學スルコトヲ禁スヘク候事

但本文ノ處分ヲ要スルキハ其族籍姓名事由ヲ具シテ當省ニ申出ヘシ

(文)第三號 明治十八年 一月二十四日達

文部省本年^一月第二號達ヲ以テ公私立學校生徒取締ノ義相達候ニ付テハ今後若シ右様ノ舉動有之ニ於テハ其情狀ニ因リ生徒ハ文部省十六年^{十一}月第十八號達ニ據リ處分シ學校長教員等ハ文部省明治十四年^七月第廿六號達同十六年^五月第九號達及官吏懲戒例ニ據リ處分シ私立學校

[學校教員品行檢定規則]

ハ停止スヘク候事

(文)第一號 明治十八年一月
十二日達

府縣ニ於テ徵兵事務條例第十六條但書ニ據リ生徒ハ在學證明書ヲ交付スルキハ左ノ書式ニ據ラシムヘク候事

書式用紙公用紙質適宜

證明書

族籍

姓名

年齢

右ハ本校何學科第何期修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ課程ヲ卒リタルモノナリ依テ之ヲ證明ス

年月日

何府立何學校長姓名印

○商業學校通則

明治十七年一月十一日
(文)第一號達

第一章 總則

第一條 商業學校ハ此通則ニ遵ヒ商ノ學業ヲ教授スル所トス

第二條

商業夜學ハ之ヲ分テ第一第二ノ二種トス第一種ハ主トシテ躬ヲ善ク商業ヲ營ムヘキ者ヲ養成スル爲メ上款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス第二種ハ主トシテ善ク商業ヲ處理スヘキ者ヲ養成スル爲メ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス

第三條 商業學校ニ於テハ商業諸般ノ取引事務ヲ演說スルニ足ルヘキ商業實習室ノ準備アルヲ要ス

上款 第二章 學科目

第四條 第一種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

修身 讀書 習字 簿記 商業通信
商業地理 商品 商業經濟 商業實習

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌セスシテ特ニ銀行、爲替運輸、保險、會社圖書、物理等ノ某科目、ヲ置キ又英、佛、獨、支那、朝鮮等ノ某語ヲ置クコトヲ得

第三章 修業年限日數及時數

第五條 第一種商業學校ノ修業年限ハ二ケ年トス但此年限ヲ一年以内増加スルコトヲ得

第六條 第一種商業學校ノ授業日數ハ少クトモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス

第七條 第一種商業學校ノ授業時間ハ每週三十時ヲ以テ度トス

第四章 入學生徒ノ資格

[商業學校通則]

第八條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十三年以上トス

第九條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ小學中等科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ小學中等科ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
讀書 習字 算術

第五章 教員ノ資格員數

第十條 第一種商業學校ノ教員中少クトモ一名ハ文部卿ノ認可ヲ經タル者ヲ以テ之ニ充テ主トシテ重要ノ學科目ヲ擔任セシムヘシ

第六章 學科目

第十一條 第二種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

修身 和漢文 習字 算術代數 簿記 商業書信 商業地理

圖畫 商品 商業經濟 商業史 商事法規 商業實習 英語

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セスシテ特ニ銀行、爲替、運輸、保險、會社法、海上法、契約法、關稅、統計、物理、化學、博物、幾何、機械、工藝誌等ノ某科目ヲ置キ又本文英語ノ外若クハ英語ニ代ヘテ佛、獨、支那、朝鮮等ノ某語ヲ置クコトヲ得

第七章 修業年限日數及時數

第十二條 第二種商業學校ノ修業年限ハ三ケ年トス但年限ヲ一年以內增加スルコトヲ得

第十三條 第二種商業學校ノ授業日數及授業時間ハ第六條及第七條ニ準ス

第八章 入學生徒ノ資格

第十四條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十六年以上トス

第十五條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ初等中學科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少ク

トモ左ニ掲クル科目ニ就テ初等中學科ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

和漢文 算術代數 地理 物理

第九章 教員ノ資格員數

第十六條 第二種商業學校ノ教員中少クトモ二名第十條ニ準ス

○東京商業學校事務章程 明治十八年六月十九日(文)報告

上款

第一項 學科課期ヲ定ムル事

第二項 學年學期及休業期日ヲ定ムル事

第三項 入學規則ヲ定ムル事

第四項 試業及學級進退規則ヲ定ムル事

東京學士會院規則 十八年四月改正

千百六十八

東京學士會院組織大綱

一 學士會ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ其會員ハ耆德碩學ノ中ヨリ選任セラル、モノトス

一 會員ノ數ハ四十名ヨリ成ル其選任法左ノ如シ

甲 帝室ノ御選ニ出ル者十五名

乙 會員ノ推選ニ出テ文部卿ノ認可ヲ經ル者二十五名

一 會員ハ各年金百五十圓ヲ賜フ

一 會員ハ豫テ自ラ撰ミタル學科ニ就キ論說ヲ演ルヲ任トス然レモ亦他ノ學科ニ就キ之ヲ爲スモ妨ケナシ

右組織大綱ニ基キ制定シタル會則左ノ如シ

第一條 會員ノ推選ハ投票ヲ以テシ投票同數ナレハ年長ヲ以テス

第二條 會員ノ順序ハ年二期ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

但新任ノ者ハ姑ク席末ト定ム

第三條 會員中ヨリ年毎ニ會長壹名幹事二名ヲ選舉シ會事ヲ理セシム

第四條 會長欠席ノ時ハ幹事ノ中壹名之ヲ代理ス

第五條 會長幹事ハ發案討論可否投票等ヲ爲スト都テ會員ニ同シ

第六條 本會書記ノ人員ハ五名以下タルヘシ

第七條 書記ハ會長幹事ニ屬シ本會ノ庶務ヲ整理ス

第八條 會員ハ教育ニ關シテ意見アルキハ議案被スルヲ得

第九條 他ヨリ送致セル議案タリトモ會員ノ中ニ之ヲ主持スル者アルキハ討議ニ付スルヲ得

第十條 本會ノ議事ハ原案人ノ需ニ非サレハ可否ヲ決セス

第十一條 可否ヲ決スルノ場合ニ於テハ多數ニ依ル

但欠席ノ數五分一ニ過クルキハ可否ヲ決セス

第十二條 會則ヲ改正増補スルノ決議ハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十三條 毎月十五日ヲ以テ開會トス

但事宜ニヨリ臨時會ヲ開クコアルヘシ

第十四條 演述ノ筆記及事務ノ記録ハ之ヲ刊行スルヲ得

○東京圖書館規則

〔東京圖書館規則〕

千百六十九

本館ノ主旨ハ博ク古今内外ノ圖書ヲ蒐集シテ篤志者ノ閱覽ニ供シ以テ學藝參考ノ資ニ便セ
ントス其規則ヲ設クルヲ左ノ如シ

第一條 本館ハ毎日左ノ時限ヲ以テ開閉ス

一月	午前第九時開	午後第四時閉
二月	同 第九時開	同 第四時閉
三月	同 第九時開	同 第四時三十分閉
四月	同 第八時三十分開	同 第五時閉
五月	同 第八時開	同 第五時三十分閉
六月	同 第八時開	同 第六時三十分閉
七月	同 第八時開	同 第六時三十分閉
八月	同 第八時開	同 第五時三十分閉
九月	同 第八時三十分開	同 第五時閉
十月	同 第九時開	同 第四時三十分閉
十一月	同 第九時開	同 第四時閉
十二月	同 第九時開	同 第四時閉

第二條 定期閉館ノ時日左ノ如シ

歲首 <small>自一月一日至三月三日</small>	館内掃除 <small>每月一日</small>	紀元節 <small>十一月一日</small>
曝書期 <small>七八月ノ際凡三週間</small>	天長節 <small>十一月三日</small>	歲末 <small>自十二月廿五日至同三十一日</small>

但此外臨時ノ閉館ハ其時々之ヲ揭示スヘシ

第三條 館藏ノ圖書ハ一切館外ニ帶出スルヲ許サス

第四條 凡ソ圖書供覽ノ爲ノ登館スル者ハ先ツ求覽券一回分一枚金一錢五厘ヲ購求シテ之ヲ掛員ニ渡シ更ニ閱覽證ヲ受テ其住所姓名及求需ノ書名函架番號冊數ヲ記シ貸渡所ニ出シテ書冊ヲ借受スヘシ

第五條 借受圖書ノ員數ハ一時ニ和漢書ハ二種五本ヲ以テ定限トシ洋書ハ二本ヲ限リトス和漢書洋書ト併セ借ルルハ和漢書ハ二本洋書一本ニ過クルヲ得ス但辭書ハ此限ニ非ス

第六條 暫時タリトモ閱覽所外へ出ル者ハ一應其借受タル圖書ヲ掛員ニ返却スヘシ

第七條 圖書借受中若シ之ヲ失亡シ或ハ黠汚毀損スルルハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ以償還スヘシ該件未了ノ間ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受スルヲ得ス但其行爲ノ次第ニヨリテ再ヒ登館スルヲ禁ス

第八條 閱覽室ニ於テハ一切音讀談話喫煙ヲ禁ス

第九條 帶醉者ト認ムルトキハ登館ヲ許サス

第十條 複本アル圖書ハ文部卿ノ特許票ニ據テ十日間ヲ期シ借受帶出スルヲ得

但和漢書ハ五本洋書ハ二本ヲ限トス和漢洋書ヲ併セ借ルトキハ和漢書二本洋書一本ニ過クルヲ得ス

第十一條 特許票ニ據テ帶出セル圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アルキ并ニ曝書ノ期ニ至レハ期限内ト雖モ必ス返還セシムヘシ

第十二條 圖書ヲ寄贈セント欲スル者ハ其目錄員數及住所姓名ヲ詳記シ之ヲ寄贈圖書ニ添テ本館ニ送致スヘシ

第十三條 寄贈ノ圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ時ハ時宜ニヨリ本館ヨリ之ヲ辨給スヘシ

第十四條 圖書ヲ寄贈シタル者ニハ甲號受領證ヲ付與スヘシ

第十五條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若クハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數等ヲ詳記シ先ツ本館へ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致スヘシ

第十六條 委託ノ圖書ハ館藏ト同様ノ取扱ニヨルヘシト雖モ一切館外ニ貸出ヲ許サス

第十七條 委託ノ圖書ハ厚ク保藏スト雖モ不幸ニシテ火難盜難其他天災ニ罹リテ損敗失亡ヲ來スコアリトモ本館ハ其責ニ任セス

第十八條 圖書ノ委託ヲ受クルトキハ乙號受託證ヲ付與スヘシ

甲號 寄贈圖書受領證書式

今般別記目錄ノ圖書本館ニ寄贈セラレ正ニ領收深ク厚意ヲ謝ス右ハ永ク本館ニ藏シ衆庶ノ閱覽ニ供スヘク候也

年月日

館長某印

乙號 受託證書式

今般別記目錄ノ圖書本館ニ委託セラレ正ニ領收ス就テハ本館規則ニ照準シ都テ館藏ト一般厚ク之ヲ保藏スヘシ因テ爰ニ受託ノ旨ヲ證シ候也

年月日

館長某印

●長崎縣ヨリ學齡兒童就學ノ義ニ付文部省へ伺 明治十七年十月廿六日

公立小學校ニ於テ女兒裁縫科專修生徒就學ノ義ニ付左ノ各項疑儀相生候ニ付此段相伺候也
第一條 凡ソ學齡兒童ハ教育令第三條及第十五條等ニ據レハ少クモ修身讀書習字算術ノ四科ノ教育ヲ受クルニアラサレハ就學トハ認ム可テサルモノト存候處客年十月愛知縣伺ニ

〔教育令伺指合〕

ニ據レハ第二項ニ學齡ニ至ルモ事故アリ入學セズ而シテ十二三ノ年齡ニ至リ始メテ就學スル女子ハ小學初等科第六級ニ編入スヘキハ勿論ニ候ヘド若シ其父母ヨリ中等科中裁縫ノ一科ヲ爲學度旨情願スルトキハ許可スルモ不苦ヤトアリ而シテ第三項ニ若シ果シテ公立小學校ニ於テ裁縫專修生ヲ置クモノトセハ右生徒ハ學齡中ノ者ハ學齡就學ト看做シ云々ニ對シ第二項ノ場合ニ於テハ學齡就學トスヘキ旨御指令有之然ルニ小學科中只々裁縫ノ一科ヲ專修スルヲ以テ就學トナスハ前段教育令ノ旨趣ニ照ラシ頗ル穩當ナラサル様思考致候右ハ如何相心得可然哉

第二條 全伺及御指令ニ據レハ學齡女兒ニシテ既ニ三ケ年ノ課程ヲ卒ヘ其後チ事故アリ退學セシモノ公立小學校ニ入り裁縫ノ一科ノミ專修スルモノハ修他學科生徒トスヘキ旨ニ候處前條ノ如ク裁縫ノ一科ヲ專修スルモノヲ就學トナス以上ハ假令三ケ年ノ課程ヲ卒ルト否トニ拘ハラス是亦就學ト見做サ、ルヲ得ス此義ハ如何相心得可然哉

指令 明治十八年 一月廿二日
書面伺ノ趣左ノ通心得ヘシ

第一條 明治十六年十月愛知縣第二項ハ小學初等科ノ課程ヲ受ケ兼テ中等科中裁縫ノ一科ヲ修メシムルモノト認メ指令及ヒタル義ト可心得事

第二條 前條指令ノ旨趣ニヨリ愛知縣へ指令ノ通可心得事

●岐阜縣ヨリ師範學校及中學校代用教員ノ義ニ付文部省普通學務局へ照會 明治十七年 九月二十日
札幌農學校ニ於テ農學全科卒業農學士ノ學位ヲ受領致居候者ハ大學科ノ卒業證書ヲ有スルモノニ準シ御省客年第十二號御達府縣立師範學校通則第六條及本年二號御達中學校通則第四條ノ教員ニ代用御許可可相成候哉

回答 明治十七年 十二月十九日

去ル九月二十日付ヲ以テ札幌農學校ニ於テ農學全科卒業學士ノ學位ヲ受領致シ居候者ハ大學科ノ卒業證書ヲ有スルモノニ準シ云々ノ儀御照會之趣了承右ハ代用許可可相成ト存候

●埼玉縣ヨリ學務委員薦舉之義ニ付文部省へ伺 明治十七年 十二月十五日

教育令第十一條學務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若クハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其中ニ就テ選任スヘシト有之候得ハ學務委員ノ薦舉ハ學區内人民ノ公薦タル勿論ニ候得共若シ其學區内ノ人民ニ於テ薦舉權ヲ拋擲シ官選ヲ以テ學務委員ヲ命スルコトヲ願出候場合有之ニ於テハ其區域ニ限り學區内若クハ他學區内ノ人民中ニ就キ學務委員ヲ選任候様致度此段相伺候也

指令 明治十七年 十二月廿五日

〔教育令伺指令〕

書面伺ノ趣聽屆候事

●青森縣ヨリ本年第八號達ニ付文部省へ伺(電) 明治十七年十二月十八日
本年八號達三條但書ニ該當スル者及農學士體操卒業生ノ如キモ本人ヨリ免許狀ヲ請ハシム可キヤ又右等免許狀ヲ有セサル者ハ一旦免官シ教諭試補等ノ名ヲ附シ採用スヘキヤ
指令(電) 明治十七年十二月廿三日

前段伺之通

但農學士ハ大學科ノ卒業證書ヲ有スルモノニ準シテ處分スルコトアルヘク體操傳習所ノ卒業生ハ本年第八號達第三條但書ニ依リ處分スルコトアルヘシ
後段現ニ教諭ノ職ニアリテ免許狀ヲ受ケシムヘキ見込ノ者ハ檢定ヲ受クルマテ其儘差置クモ苦シカラス

●石川縣ヨリ本年第十二號達ノ義ニ付文部省へ伺 明治十七年十二月廿六日

貴省本年第十二號達中某學科ノ加除ヲ許可セントスルルハ可伺出ト有之候ハ中學校教則大綱第三條第四條ノ學科中某學科ヲ加除候節可伺出義ニシテ高等中學校ノ外若クハ高等中學校ヲ置カス普通理、文及ヒ農、工、商業ノ專修科ヲ設ケ候節ハ經伺ノ限ニアラサルヤニ被存候ヘ尺疑岐ニ亘リ候ニ付此旨相伺候也

指令 明治十八年一月十五日 (伺之通)

●札幌縣ヨリ中學校師範學校教員免許規程ノ義ニ付文部省へ伺 明治十七年十二月廿二日
御省直轄體操傳習所卒業證書ヲ有スルモノハ本年八月御省第八號御達中學校師範學校教員免許規程第三條但書第三項ニ該當候モノト認メ可然哉

農商務省所轄札幌農學校卒業證書ヲ有スルモノハ大學科卒業ノモノト見做シ可然哉
指令 明治十八年一月十九日

伺之通

但兩條トモ任用ノ都度其人ニ就テ取調申出ヘシ

●京都府ヨリ中學校師範學校教員學力檢定願ノ義ニ付文部省へ伺 明治十七年十二月廿七日
今般當府立京都龜岡二中學并師範學校職員ヨリ本年御省第八號達教員免許規程ニ依リ學力檢定ノ義別紙人名ノ通履歷書相添出願致候右ハ孰レモ品行善良ノモノニ付御試驗相成度尤モ總テ在職者ニ付試驗委員御派出相成候様致度此段及副申候也 (別紙略ス)

追テ宮津三山木二中學校教員ノ義ハ履歷書等不完全ニ付訂正爲致追テ可及進達候條此段及追申候也

指令 明治十八年一月十九日

(教育令伺指令)

書面試験委員派出ノ義ハ不相成候事

●長野縣ヨリ師範學校教員免許狀ノ儀ニ付文部省へ伺 明治十八年 一月十日

師範學校訓導ハ該付屬小學校生徒之教授ヲ擔任シ兼テ本校生徒ノ實地授業ヲ監督スル者ニ有之又師範學校教諭ニシテ小學訓導タル者ハ專ラ小學校ニ於ケル授業管理上之監督教授ヲ掌リ他之教員トハ自ラ其資格ヲ殊ニスレハ御省客年八月第八號御達ノ免許狀ヲ有セサルモ妨ケナキ儀ト相心得可然哉

指令 明治十八年 一月廿二日

書面小學校生徒ノ教授ノミヲ擔任スル訓導ハ伺ノ通其他之者ハ總テ免許狀ヲ受領セシムヘキ義ト心得ヘシ

●岡山縣ヨリ町村ノ境界ニ仍ラス區域ヲ畫シ開會スヘキ學事會ノ儀ニ付内務文部兩卿宛伺 明治十八年 七月 三十一日

小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍ラサルハ十四年第三十八號布告但書ノ通り區町村會法第十四條第十五條ニ依リ別ニ區域ヲ定メテ學事會ヲ開設スヘキ筈ニ付右等ノ場合ニ於テハ學事會ヲ開會致居候處客年ノ該會ニ於テ教育費ノ爲メ負債ヲナシ收支ヲ取計候向モ有之候然ルニ本年四月該區域ヲ改正シ町村ノ境界ニ依リ學區ヲ定メ候ニ付該區域ハ目今小學校設

置ノ區域ニ無之候ヘレ該區域ニ於テナシタル負債ヲ償却スルノ方法ヲ議スル爲メ會議ヲ開カサル可カラズ候ニ付右ハ舊學區ノ教育費ニ關スル事件ノ結了スル迄ハ學事會ヲ開キ然ルヘキ哉

指令 明治十八年 九月十一日 (書面伺ノ通)

●熊本縣ヨリ縣立師範學校公費給與ノ儀ニ付文部省へ伺 (電) 明治十八年 九月一日

縣立師範學校モ授業料ヲ取ル事トナレリ付キテハ必スシモ公費ヲ給スルニ及ハヌヤ 指令 (電) 明治十八年 九月五日

本月一日伺公費支給ノ件ハ師範學校通則第九條ノ通心得ヘシ

●福島縣ヨリ縣立學校ノ授業料ハ給費貸費生徒ヨリ徴收セサル義ニ付文部省へ伺 (電) 明治十八年 九月九日

縣立學校ノ授業料給費若シハ貸費ノ生徒ヨリハ徴收セサルモ若カラヌヤ直ニ御指揮ヲ乞フ 指令 (電) 明治十八年 九月七日

本月廿九日發電報縣立學校授業料ノ件ハ師範學校ニ限り伺之通

●宮城縣ヨリ縣立學校公費生ノ義ニ付文部省へ伺 (電) 明治十八年 九月一日

御省第七號御達ニ因リ縣立學校ノ公費生ハ相廢スヘキ義カ授業料徴收ニ付決シ兼ヌル場合

(教育令伺指令)

アリ電報ニテ御指揮ヲ乞フ

指令(電) 明治十八年
九月十四日

本月一日發電報伺公費生ノ件ハ師範學校ニ於テハ廢スヘカラス其他ハ學校ノ種類ト地方ノ情況トニ依リ其時々伺出ツヘキ義ト心得ヘシ

●愛知縣ヨリ中學師範學校教員ノ義ニ付文部省ヘ伺 明治十八年
八月十五日

第一條 中學師範學校若クハ大學科ノ卒業證書或ハ中學校師範學校教員免許狀ヲ有スルモノニ非スシテ中學校師範學校ノ教諭試補若クハ助教諭試補等申付タルハ取扱判任ニ准スルモ差支無之哉

第二條 前條ノ如ク教諭試補助教諭試補等ヲ判任ニ准シタルハ教諭試補ハ唯十等官ノ末位助教諭試補ハ准十三等官ノ末位ニ列シ可然哉

指令 明治十八年
八月三十日

書面伺之趣教諭試補助教諭試補ハ判任ニ準スルヲ得サル儀ト心得ヘシ

●鹿兒島縣ヨリ授業料徵收ノ義ニ付文部省ヘ伺 明治十八年
九月十九日

御省本年八月第八號達自今町村立學校ニ於テハ授業料云々トアリテ教場ノ文字之ナク右ハ學校ト教場トハ其名稱各別異ノモノト被存候ニ付テハ教場之儀ハ無論該達ノ限ニアラサル

儀ト心得可然哉

指令(電) 明治十八年
十月三日

九月十九日付授業之件ハ伺ノ通

●岡山縣ヨリ教育令疑團之件ニ付文部省ヘ伺 明治十八年
九月八日

一 本年八月教育令御改正學務委員被廢候ニ付テハ學區内ノ諸務ハ專ラ戶長ヲシテ幹理セシムヘキノ處爰ニ一學區内數名ノ戶長アリテ其所轄亦數箇ニ相分レ居候處學事ノ如キハ細大ノ事務總テ本學區ニ涉リ指辨セサルヲ得サル場合有之候條右戶長ハ學事ニ關シテハ全學區一團變ヲ以テ事務爲取扱可然哉

一 教育令第三條ニ小學教場ノ文字ヲ被掲候右教場ハ小學校ト本支ノ關係ヲ有シ兒童ノ通學不便ニシテ且ツ小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏數箇所ニ開設スヘキ者ニ候哉

一 教育令第二十五條教員ノ年齡學力等ノ義ハ私立學校小學校ヲ除クニモ關スル義ト相認可然哉果シテ然レハ私立學校教員免許狀授與規則ヲ製シ可相伺哉

指令 明治十八年
十月三日

書面伺ノ趣左ノ通可心得事

第一項 教育令ニ關スル伺第一項ハ區町村會法第十五條但書ノ場合ニ於テハ伺ノ通

(教育令伺指令)

第二項 伺之通

但小學教場ト小學校トハ本支ノ關係ヲ有スルモノニ無之候事

第三項 前段公私立學校一般ニ關スル義ト可心得後段免許狀授與方ノ義ハ當省ヨリ相達ヘク候事

●高知縣ヨリ小學分校之義ニ付文部省ヘ伺(電) 明治十八年十一月十日

改正教育令ニハ小學分校ノ目ナシ從前ノ通指定可然カ

指令(電) 明治十八年十一月十七日

本月十日伺小學分校ノ件ハ伺ノ通

●宮城縣ヨリ應請卒業證書ヲ免許狀ニ代ヘ交附ノ義ニ付文部省ヘ伺 明治十八年十一月二十五日

本月十七日付官報ニ師範學校ニ於テ應請卒業證書交付不相成旨山口縣ヘ御指令ノ趣モ有之處師範學校ニ於テハ以來學力檢定等ノ請求ニハ應セサル義ト相心得可然哉果シテ然ラハ師範學校ノ卒業證書ヲ有セサル者ヲシテ教員マラシメントスルハ都テ改正教育令第二十五條ニヨリ候義歟

指令(電) 明治十八年十二月三日

伺之通

但師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者ト雖モ教育令第二十五條ニ依ル可キ義ト心得ヘシ

○社寺ノ部 明治十七年八月十一日 第十九號布達

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得ヘシ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一教規

一教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一教師ノ等級進退ノ事

一以上神道管長ノ定ムヘキ者トス

一宗制

〔社寺ノ部〕

一 寺法

- 一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
- 一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事
- 一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ稱スルヲ得

○第六十七號 明治十七年八月十一日達

管長身分ノ義ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

○第六十八號 明治十七年八月十一日達

今般教導職廢セラレ候ニ付テハ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フモノトス

○第六十八號 明治十七年八月十一日達

神佛各宗派管長及從前教導職タリシ者ノ身分取扱ノ義第六十七號及第六十八號ノ通相定候事

(丙)丁第一號 明治十八年三月十八日達

教規宗制認可ヲ與ヘタル後ハ從前認可シタル教規宗制ノ部類ハ總テ認可ノ効ヲ失ヒ候義ニ付重要ノ事項ニシテ認可ヲ乞フヘキモノハ更ニ教規宗制中ニ編入可差出義ト可心得候事

(丙)丙第一號 明治十八年五月廿日達

別紙甲第十六號ノ通各府縣ヘ相達候條自今願同共地方廳ヘ可差出事

(丙)甲第十六號 明治十八年五月二十日達

- 一 官國幣社々入金遺拂并豫備積蓄金處分ノ事
- 一 同經費ヲ以テ常用器用品新調修繕ノ事
- 一 同不用ノ建物古材賣却ノ事
- 一 同社營建物改造修繕ノ事
- 一 同寄附物品ノ事
- 一 同神官派出々京養痾歸省ノ事
- 一 社寺廢合跡建物處分ノ事
- 一 同什物祠堂金及持添田畑山林處分ノ事
- 但寶物古文書ハ此限ニアラス

〔社寺ノ部〕

一同境內官有地ノ樹木伐採處分ノ事
一同境內民有地へ記念碑建設處分ノ事

右件々委任候條府縣限リ致處分其都度可届出候事

○第二百三十五號 明治六年七月
二日布告

社寺境內ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事

○第三百五十四號 明治六年十月
廿二日達

社寺境內伐木ノ義ニ付本年七月第二百三十五號布告候處官國幣社ヨリ若シ難止事情有之伐木願出候節ハ該廳ニ於テ篤ト取調教部省へ伺出處分可致候事

(丙)甲第三十一號 明治七年十二月
十日達

社寺境內樹木ノ義ハ昨六年第二百三十五號公布ノ通可相心得筈ニ候ヘモ社寺ノ私有ナル確證有之有稅地ニ係候者及ヒ其村町ノ買得候確證有之候有稅地ニ係リ候モノニ限リ無余義入用有之伐木致度節ハ所有主ヨリ其事故管轄廳へ申立事實取糺相違ナキニ於テハ可開届候事

(丙)乙第七十五號 明治七年十二月
十日達

社寺現境內上地相成候山林ハ外官林同様可相心得現境內ニ屬シ上地不相成場所ハ太政官昨

六年二百三十五號同二百九十一號公布ノ通可相心得處一舊社人僧侶ノ族心得違ヒニテ樹木伐採致シ刑典ニ罹リ候モノ有之候テハ不都合ニ候條各地於テ厚ク注意可致候事

○第七號 明治八年六月
十九日達

明治六年七月第二百三十五號ヲ以テ社寺境內伐木ノ義布告候處自今延喜式內並國史見在神社境內ノ分ハ同年十月第三百五十四號達書官國幣社ニ準シ若シ難止事情有之伐木願出候節ハ教部省伺出處分可致候事

(丙)乙第二十二號 明治七年三月
十七日達

戊辰己巳ノ際從軍徇國ノ者戰歿ノ地及其他各所ニ於テ舊藩主或ハ人民共私設致候招魂場ノ義ハ永ク忠士ノ魂魄ヲ御吊慰被爲在候御趣意ヲ以テ自今其所在ノ地稅ヲ免シ祭祀並修繕共一切官費支給可致旨被仰出候事

但招魂場敷地反別地稅ノ有無並從前祭祀修繕ノ費額別紙雛形ニ照準箇所限リ明細取調實地景况繪圖面並實測繪圖面共一通ツ、相添來ル五月三十一日限リ當省へ可伺出最右場所無之向ハ來ル四月十五日限リ其旨可届出候事

○二百四十九號 明治六年七月
十七日達

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノ

〔社寺ノ部〕

モノタリ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已義有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省へ可申出候事

(教)第三號 明治九年二月二日達

神社佛寺古來所傳ノ什物等處分ノ義明治六年七月第二百四十九號公布ノ趣有之ニ付テハ持添ノ田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候事

(内)甲第十三號 明治十年七月五日達

府縣社以下神社什物ノ儀自今左ノ通相心得取締可致候事

一什物ハ各部類ヲ分子其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書 第二類 祭具什器並持添ノ田畑附屬ノ建物等

右牒簿二部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ該地ノ崇敬人總代二名以上尙該地之區戶長連署調印一部ハ

區戶長役所へ一部ハ其社へ藏メ置ヘシ

(教)第三十八號 明治九年十二月十五日達

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成候ハ、永續方法並神官僧侶ノ受持等夫々取調爲申出候上管轄廳見込相立可伺出候事

但從前願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方伺出ヘク事

(内)丁第十二號 明治十年十月廿九日達

各社々用タリト雖モ氏子及其他ヨリ金穀借入候義ハ不相成等ニ候事

(内)乙第一百號 明治十年十月廿九日達

別紙丁第十二號之通神宮並官幣社神宮へ相達候事

○社寺取扱概則

明治十一年九月

第一條 社寺ノ創建ハ民有地ニ建設スルモノ神官住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモ寺院ハ本寺連署戶長與書ヲ以テ願出永續財產ノ目途且其地所建物社寺ノ體ヲ具フル者ニ限り允許スル

ヲ得ヘシ再興復舊等總テ之ニ準ス但別紙書式ニ倣ヒ其都度當省へ届出ヘシ(明治十三年六月廿三日乙第二十八號ヲ以テ)增補アリ

第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限り

聞届毎月末取調當省へ届出ヘシ尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ義ハ從前ノ通但式内神社並文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ前以テ當省社寺局へ照會ヲ經ヘシ

第三條 邸内社堂並ニ掛所道場引直及寺號公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出ルモノニ

〔社寺ノ部〕

限リ聞届別紙書式ニ倣ヒ毎月末取纏當省へ可届出

第四條 前條々ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關スル條件中例規ヲキモノハ其都度當省へ伺出ヘシ

(内)乙第二十八號 明治十三年六月廿三日達

明治十一年當省乙第五十七號達社寺取扱概則第一條及第三條左ノ通増補候事

第一條 其地所建物社寺ノ躰ノ下社ハ本殿拜殿ノ註文拾二字

第三條 手續ニ從ヒ願出ノ下(永續)目途並建物ノ躰堂宇ハ方六尺以上ヲ具フノ註文共廿字

(内)乙第三十一號 明治十二年六月廿八日達

各管下神社寺院明細帳ノ義最前進達ノ分脱誤不少候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂社祖靈社明細帳ヲモ調製本年六月三十日ノ現況ヲ以テ取調同十二月限リ可差出此旨相達候事但眞宗寺院明細帳ノ義ハ十年當省乙第六十九號達ノ趣候處今般取調ニ付テハ各宗寺院同様取調差出スヘキ事

(教)第二號 明治七年二月廿二日

禪宗之義ハ臨濟曹洞黃檗共併而一宗ニ相定ノ候處自今臨濟曹洞者更ニ兩宗名稱シ黃檗派者臨濟宗へ合併爲致候條爲心得相達候事(九年同省達書四號ヲ以テ黃檗派ハ宗復舊別立ヲ許ス)

(教)第三十一號 明治七年七月十五日達

自今教導職試補以上ニ無之向ハ寺院住職不相成候事(任免ノ部同年三十五號達參看)

(内)乙第一號 明治十二年一月十一日達

無檀無住ノ寺院廢止處分ノ義ハ明治十一年當省乙第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致事

○第三百三十三號 明治五年四月廿五日布告

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

○第二十六號 明治六年一月廿二日布告

壬申第百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今丘尼ノ義モ蓄髮肉食縁付歸俗等可爲勝手事但歸俗ノ輩ハ入籍致シ候上戸長へ可届出事

(内)甲第十號 明治十年五月十六日達

僧業相廢候者其都度管轄廳へ可届出旨八年十二第五十三號ヲ以テ元教部省ヨリ及布達候處自今不及届出候事

○無 號 明治七年一月三十一日達

戊辰己巳ノ際從軍殉國ノ者各所戰歿ノ地等ニ於テ其遺骸埋葬之墳墓自今官費ヲ以テ修繕シ

〔社寺ノ部〕

朽腐穢蕪無之様可致注意旨各地方官へ可布達候事

(宮)乙第三號 明治十三年十一月十五日達

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云々ノ件去ル七年五月第五十九號ヲ以テ公達ノ趣有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリトモ猥リニ發掘不致等ニ候へ由自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様次第有之候ハ、口碑流傳ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名并近傍ノ字等ヲモ取調當省へ可申出候事

(教)第四號 明治九年六月十四日

各寺院ノ佛像地管内へ持出シ開帳候義自今令停止候條此旨寺院へ布達スヘキ事

○第廿二號 明治十一年六月五日達

綏靖天皇以下後櫻町院天皇迄御歷代御式年御正辰祭共被廢更ニ春秋二季祭ヲ被置神武天皇ヲ御正席トシ先帝迄御歷代并ニ后妃以下皇親御合祭被執行候條此旨相達候事但神武天皇及ヒ後桃園院天皇以下御近陵御式年御正辰祭并ニ其后妃皇親御配享ノ義ハ猶從前ノ通被執行候事

春季皇靈祭 春分日

秋季皇靈祭 秋分日

○第百九十二號 明治五年六月廿八日達

近來自葬取行候者モ有之哉ニ相聞候處向後不相成候條葬儀ハ神官僧侶ノ内へ可相頼候事

○第百九十三號 明治五年六月廿八日布告

從來神官葬儀ニ關係不致候處自今氏子等神葬祭相頼候節ハ喪主ヲ助ケ諸事可取扱候事

○第十三號 明治七年二月廿九日布告

葬儀ハ神官僧侶ノ内へ可相頼旨壬申六月第百九十二號布告候處自今教導職ノ輩へハ信仰寄葬儀相頼候儀不苦候事

○第八十九號 明治八年五月廿三日布告

明治六年七月第二百五十三號火葬禁止ノ布告ハ自今廢シ候事

(内)乙第八十號 明治八年六月廿四日達

火葬ノ義第八十九號ノ通御布告有之候ニ付テハ燒場ノ義左ノ心得ヲ以テ取扱可申候事

第一條 燒場ハ東京府下ハ朱引外其他ノ地方ハ市街村落ノ外渾テ人家遠隔ノ地ニ於テ薄稅地又ハ借地等無之地ヲ撰ミ最寄市邑申合共用致サスヘク尤官有地又ハ民有地ノ内新規相設候積リ取調可伺出事

第二條 舊燒場ハ(官民有地ヲ論セス)從前ノ儘使用スル土地及新規拂下タル土地ハ民有地第二種ニ可組入事

〔社寺ノ部〕

第三條 燒場ハ火爐烟筒及墻壁等ヲ設クヘシ尤人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置
ヲ爲スモ不苦候事

第四條 燒場造築修繕等一切ノ入費ハ人民ノ自辨勿論ニ候ヘド都テ不都合無之様區戸長於
テ注意取締可爲致事

第五條 遺骨ヲ此場中ニ場葬候義ハ不相成候事
(内)乙第百廿三號 明治九年十月十九日達

昨八年^六當省乙第八十號達燒場取扱方心得書第二條左ノ通更正候事

一舊燒場(官民有地ヲ論セズ)從前ノ儘使用スル土地及ヒ新規拂下タル土地ハ民有地第二
種ニ可組入事

○第百七十六號 明治五年六月十二日布告

僧尼服忌ノ義ハ是迄御制度モ無之候處自今人民一般ノ服忌ヲ可受事

○第五十二號 明治六年二月十四日達

奏任官ノ輩御用ノ都合ニ付除服出仕ノ義ハ是迄宣下相成候處自今其管轄長官ニテ相達其時
々可届出事

○第三百四十七號 明治六年十月十五日達

遠地出張在勤ノ勅奏官忌服ヲ受ケ御用差支已^ハヲ得サルノ節ハ除服宣下又ハ該長官差圖ニ
及ヒ候迄忌服ノ儘出仕被差許候條此旨相達候事但判任官員之レニ準シ候場合ニ於テハ勿論
同様ノ義ト可相心得事

○第十號 明治八年一月十八日達

地方官員除服出仕ノ義辛未十二月中相達候趣モ有之候處自今左ノ通相定候事

一奏任以上ノ官員忌服中事務差支有之節ハ其長官ヨリ忌日數半減ニテ除服出仕相達長官同
様ノ節ハ代理ノ者ヨリ相達其旨届出ヘシ

一同上在東京ノ節ハ出張所ヨリ正院ヘ申出ヘシ

一同上出張ノ節ハ明治六年第三百四十七號達ノ通タルヘシ (八年一月廿日十一號達ヲ以
テ府縣東京出張所ヲ廢ス)

○第五十六號 明治五年二月廿五日布告

自今産穢不及憚候事

○第六十一號 明治六年二月廿日布告

自今混穢ノ制被廢候事

○第六十三號 明治六年二月廿日布告

華族從來子細ノ所勞ト稱シ候忌ハ自分受ルニ不及候事

(社寺ノ部)

○嫡子ニテモ家督ト定メサレハ末子ノ服忌又末子ニテモ家督ト定ルキハ嫡子ノ服忌

○嫡子ヲ養子ニ遣シタルハ服忌末子ニ同シ尤末子ハ養子ニ遣シテモ服忌差別ナシ

○七歳未満双方服忌ナシ遠慮父母ハ三日親戚ハ一日日數ヲ過テ承レハ之ニ及ハス小兒ノ父母ニ於ルハ遠慮五十日親戚ハ一日日數ヲ過テ承レハ父母ノ外之ニ及ハス但八歳ヨリ服忌定式

○妾服忌ナシ子出生流産ヲ除ニ於テハ三日遠慮スヘシ

○養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハル、者ハ半減實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹他家ニ養ハル、者モ亦同シ實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハル、トモ其儘服忌半減

○半減ノ法定式七日ハ四日三日ハ二日トス他ハ之ニ準ス但半減ノ半減法ハナキモノトス

○一日ト算スルハ其夜十二時迄トス

○同姓異姓ニテモ一人兩様ノ續アル者ハ重キ方ノ服忌ヲ受ク

○聞忌父母ノミ歳月ヲ經ルモ其日ヨリ更ニ定式其他親類ハ殘日數ヲ受ケ日數已ニ經過ス

レハ一日遠慮

○服忌重複スルハ共ニ之ヲ受ケ追テ受ルニ及ハス一方ニ餘ヲ生スルハ其殘日數ヲ受クヘシ

○改葬子ハ總テ一日遠慮忌アル親類ハ其場ニ會スレハ一日遠慮他人ニテモ改葬ノ主トナレハ一日ノ遠慮堀起ヨリ改葬マテ數日アルキハ子并他人ト雖モ改葬ノ主トナリタルモノハ始終二日遠慮スヘシ遠國ニテ改葬ノ日ヲ承知ナレハ其日遠慮スヘシ尤改葬後報知ヲ得ルハ遠慮ニ及ハス

○戶籍法 明治四年四月四日布告

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙ノ通改正被仰出候條管内普ク布告致シ可申事

戶籍檢査編制ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候ヘ右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ處置致スヘク尤三都府及各開港場ハ人民輻湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者へ鑑札渡方寄留表取調方等當六月廿九日ヨリ後ル可ラサル事但不審ノ廉ハ民政部省へ可承合事

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候モノ又ハ非命ニ死シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其申テ記録シ名前書員數共毎歲十一月中其管轄廳又ハ支配所

〔戶籍法〕

へ差出サセ十二月中辨官へ可差出事

戸數人員ヲ詳ニシテ撰ナラサシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所也夫レ全國人民ノ保護ハ太政ノ本務ナルヲ素ヨリ云フヲ待タス然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニセス何ヲ以テ其保護スヘキヲ施スチ得ンヤ是レ政府戸籍ヲ詳ニセサルヘカラサル義ナリ又人民ノ各安康ヲ得テ其年ヲ逐ル所以ノモノハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其數ニ漏ル、モノハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民ノ外タルニ近シ此レ人民戸籍ヲ納メサルヲ得サルノ義ナリ中古以來各方民治趣チ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ遠近アレハ則チ志行ヲ同フセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レズ或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ付スルニ至ル故ニ今般全國總體ノ戸籍法ヲ定メラル、チ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜ク粗略ノコナカルヘシ

第一則 戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ収メサルヲ以テ遺漏ノコアリト雖モ之ヲ檢査スルノ便チ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法民一般(華族卒嗣官附侶平民)其住居ノ地ニ就テ之ヲ収メ專ラ遺ヌナキチ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入

等ヲ詳ニスルコトヲ掌ラシムヘシ

第二則 戸長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス但戸長ノ務ハ是迄各所ニ於テ庄屋名主年寄觸頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ルモ妨ケナシ

第三則 凡ソ區畫ヲ定ムル譬ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五町若クハ七八村ヲ組合スヘシ然レモ其小ナルモノハ數十ニ及ヒ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ(華族土族住居ノ地從前武家地屋敷地ト唱ル類モ同様タル素ヨリ云フ待ス)但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ從ヒ一村一町ニテ檢査セシムルモ妨ケナシ官ノ學校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナスハ其官司ノ吏員其社寺ノ執事等ニテ戸長ノコトヲ扱ハシムルモ妨ケナシ

第四則 戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通リト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其廳ニ差出シ其廳之ヲ第五六號ノ式ノ如ク其管内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其廳ニ備置キ一通ニ廳印ヲ押シ表ト共ニ六ケ年目ニ改メ太政官へ差出スヘシ(支配所トハ管轄内廣遠ノ邊別ニ一小部ヲ置支配)但支配所

〔戸籍法〕

ナキ所ハ直ニ其廳ニ出スヘシ以下准之

第五則 編製ハ爾後六ケ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必ス其時々戸長ニ届ケ戸長之ヲ其廳ニ届出テ(支配所アル者ハ支配所ニ)其廳之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ差出スヘシ(加除ハ生ルハモ加ヘ死者ト出ルモノヲ除ク類ヲ云フ)

第六則 管轄廳ニ於テ戸籍專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノコアルニ於テハ其吏員並ニ戸長(戸長ナキハ大社大寺ハ執事)ノ責ナルヘシ

第七則 区内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ユヘシ故ニ毎區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番屋敷ト記シ編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ルヲ要ス但区内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸ヲ割テ二戸トシ二戸ヲ合セテ一戸トナスコアル由チ其由チ戸籍ニ記シ番號ハ其儘据置六ケ年目ニ至リ改ムヘシ

第八則 各地方貫族或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由チ本貫管轄廳ヘ願出其廳ヨリノ送りヲ取り在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故アリテ元ノ管轄所ヘ引移ルルハ之ヲ戻スコト其始メ出ルルノ如クシ其所ノ籍ニ編入スヘシ但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫ヲ證トシテ其住居

ノ地區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由チ其官省ヨリ達シ其廳之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送籍スルコト本條ノ如クスヘシ(第八則云)若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ籍ニアルヲ願フモノハ其地寄留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ケナシ

第九則 他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍スルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合並ニ戸長ニ其由チ届ケ長副連印シ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ其廳聽知ルノ証ヲ押シ當人ニ渡スベシ但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラバ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカラシムルヲ要ス

第十則 他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スルルハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由チ通シ戸長其相違ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元廳ノ證ト其入籍セシ事ノ由チ時々其廳ニ届クヘシ

第十一則 管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則マテノ例ヲ見合スヘシ但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其廳ニ届ケ其廳之ヲ聽キ即チ本書ニ加除スヘシ(加除ハ甲ノ籍ヲ除キ乙ノ籍ニスルノ類ヲ云フ)但其區ニ於テ時々加除スルハ亡論ナルヘシ

第十二則 全戸引移ラヌ又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ廳ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其廳之ヲ受ケ即チ其廳ノ鑑札ト引替遣スヘシ(鑑札ニハ當人名任所職分ヲ記スヘシ)而シテ其者歸國スル節ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國スヘシ但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シムヘシ故ニ鑑札ハ豫メ支配所ヘモ備ヘ置テ要ス 鑑札引替ノ節其戸長(官ノ學校兵隊屯所ノ如キ)ニ差出ヌ名前書ニハ官員ハ當人兵隊ハ隊長證印シ自余ハ戸主(ハ其役場大社大寺ハ執事)ニ差出ヌ名前書ニハ官員ハ當人兵隊ハ隊長證印シ自余ハ戸主備主請人等證印スルヲ要ス(名前屆書或ハ第)(明治四年七月廿二日御達)(三號見合スヘシ)(ヲ以テ寄留鑑札ヲ廢ス)

第十三則 修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノ第十二則ノ例タルヘシ 全戸引移リシ官員等ノ内寄留情願ノ者モ第十二則ノ例タルヘシ(第八則但書ト)但是迄修行又ハ奉行政シ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ廳ニ屆ケ鑑札請取第十二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ廳ニ屆ケ難キ事故アルモノハ其寄留地ノ廳ニ於テ戸主備主請人等ノ證書ヲ出サシメ其廳ヨリ直ニ其本貫ノ廳ニ掛合鑑札受取ヘシ但自今以後ハ此例ニアラス

第十四則 凡ソ旅行スルモノ官員ハ其官省等ノ鑑札ヲ所持シ自余ハ臣民一般其管轄廳ノ鑑札ヲ所持スヘシ(寄留ノモノハ其所持スル鑑札ヲ用ユヘシ)故ニ旅行ヲ以テ渡世トスルモノ

ノ、如キハ急速ノ便ヲ得ル爲メ豫メ其鑑札ヲ申置モ妨ケナシトス(第十二則但書ノ通處置シ急速ノ便ヲ得セシムヘシ)但其管轄廳ノ鑑札ニハ當人名住所ト職分ヲ記スヘシ通名住所及職分ヲ變セシ時ハ右鑑札ヲ引替ヘシ(明治四年七月廿二日御達)(ヲ以テ旅行鑑札ヲ廢ス)

第十五則 驛遞旅宿ニ於テハ其鑑札ヲ認メ之ヲ宿帳ニ記シ止宿セシムヘシ此證據ナキモノハ止宿セシムヘカラス

第十六則 宿帳ハ七日目毎ニ驛遞ハ其驛出張驛遞掛ノ改ヲ受自余ハ其戸長ヘ出シ改ヲ受クヘシ旅籠屋ニ限ラス都テ逗留三日以上ハ其戸長ニ屆ケ(人民輻湊スル三都府ノ如キハ其時々戸長ヨリ其廳ニ屆ヘシ)九十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘシ旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ屆ケ出ルハ勿論ナリ但戸籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ檢査スヘシ

第十七則 各地ニ出張スル官員出入トモ其管轄廳ヘ屆ケ其出張先ノ地方廳ヘモ屆クヘシ

但地方ノ廳懸隔リシ場所一時出張シ或ハ急遽ノ事務等アレハ其手續ナキトアルヘシ

第十八則 僧侶ハ其得度ノ地ヲ以テ本貫トシ他寺ニ轉住スル時ハ送籍シ行脚遍參スルモノ寄留地ニ於テ鑑札引替ル事第十二則ノ例タルヘシ

第十九則 鑑札ヲ所持シテ出奔死亡シ或ハ刑ニ處セラレ歸國セサルモノハ其所ノ官司ヨリ其由ヲ本貫ノ廳ニ達シ鑑札ヲ送り還スヘシ

第二十則 六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改ムルニ當リテ其戸籍取集メシ上ハ日限ヲ定メ其區々ニ於テ長并副區内一戸毎ニ其差出ス處ノ戸籍ト現在ノ人員ニ突合セ相違ナキヲ點檢スルヲ以テ法トスヘシ寄留ノモノハ會テ届ケ出シ名前書ヲ以テ人員及所持ノ鑑札ニ突合セ相違ナキヲ證スルヲ以テ法トスヘシ(凡テ寄留ノモノハ戸籍改ノ前第十二則第十三則ノ例ニ從ヒ鑑札ヲ受ケ名前書ヲ差出置ヘシ)氏神ノ守札モ其時檢査スヘシ但其土地ノモノニテ其土地ニ修行又ハ奉公シテ他家ニアルモノハ戸籍改ノ日限ニハ歸宅シテ改ヲ受クヘシモシ體ナル證據アリテ其日限ニ歸宅シ難キモノハ其證據ヲ以テ證トスルモ不得已ヘシ(明治第六百八十號御布告ヲ以テ守札渡方ヲ中止ス)

第二十一則 凡ソ戸籍ヲ檢査スルハ遺漏アルヘカラス又重複スヘカラスニツノ者ノ弊アルハ檢査ノ要ヲ失フ尤甚シトイフヘシ故ニ戸長ヲ設ケ地ニ就テ戸籍ヲ收ムルハ遺漏ノ弊ヲ防ク所トイヘトモ其戸籍ヲ出入スルニ當リテ(出入ハ他ノ管轄内ヲ出此管轄内ニ入り甲ノ區ヲ出乙ノ區ニ入ル類ヲ云)深ク注意セサレハ又重複ノ弊ヲ免ル能ハス故ニ六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改正スルニ當リ其戸籍ヲ檢査スルノ日ハ天下府藩縣一般二月一日ヨリ五月十

五日ヲ以テ終ルヲ法トスヘシ(此間凡百日)

第二十二則 六ヶ年目毎ニ二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日ノ間ハ戸籍ノ出入ヲ止ムヘシ但不得止事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ調ハ其本住所ノ廳ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日ノ間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ送籍入籍ノ事ヲ所置スヘシ但戸籍檢査ノ日ニ當リテ(二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日ノ間不得已移轉セシ者ハ送籍入籍ノ時(五月十六日ヨリハ)必ス其由ト其月日トヲ本書ニ書顯スヘシ(明治六年第二百四十二號御布告ヲ以テ第二十則第二十二則)第二十三則 六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍檢査既ニ終リ其廳ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作り(第五號式ノ如ク)本書共ニ七月中太政官ヘ差出スヘシ(第四則ト見合スヘシ)但一紙ハ其廳ニ留置キ毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四則 寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ(支配所ナキ者ハ其廳)其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月檢査シテ其廳ニ出シ其廳之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ但支配所アルハ某支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則 三都府ハ人民輻湊ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月檢査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ

〔戸籍法〕

第二十六則 民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖此迄地方官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘出スヘシ

第二十七則 戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ罫紙ヲ用ユヘシ戸長ト其廳ヘ收ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ每區戸長ヘ本書分ノ公用罫紙ヲ其廳ヨリ下ケ渡スヘシ

第二十八則 各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲メナルヲ以テ能々注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則 此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ其事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クヌヘシ

第三十則 華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第三十一則 凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ(明治九年第九十六號 御布告ヲ參照スヘシ)

第三十二則 穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、加キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書ヲ出サセ(年齡癡疾等ヲモ認ムヘシ)其人員男女ヲ分チ戸籍表ニ書入レ差出シ廳ニテ

モ戸籍表ニ入ル、式ノ如クヌヘシ但生死出入其最寄戸長ニテ取扱寄留旅行ノ規則等平民同様ノ例ニ從ヒ名前書ヲ六ヶ年目ニ出サシムル戸籍ノ如クヌヘシ(明治四年八月廿八日御布告ヲ以テ穢

多非人ノ例ヲ廢シ一般戸籍ニ編入シ同ニ取扱ハシム)
第三十三則 都テ書式ハ臣民ニ體裁一ナレハ彼是相通シ參用シテ妨ケナシ(表式略ス)

○第七十四號 明治七年七月十日布告

今般華士族分家候者ハ總テ平民籍ニ編入相成候ニ付本年一月第八號僧尼族籍編入ノ布告自今左ノ通更定候事

一僧尼ノ輩族籍被相定候條各自其原籍ニ復スヘキ事

一原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現在地ヘ別ニ本籍相定メ若現在地ノ外ヘ本籍相定度望ノ者ハ一旦現在地ヘ定籍ノ上其地ヨリ望ノ地ヘ送籍スヘシ但別ニ本籍相定候者ハ元身分ニ拘ハラズ總テ平民籍タルヘキ事

一眞宗(維新以來華族ニ列セラレシ者ヲ除クノ外)并ニ舊修驗等世襲ノ者モ一般平民タルヘキ事

一本末寺共其住職タル者宗教事務管理ノ義一般職分同様タルヘキ事

但一寺住職ノ者ハ平民タリ共總テ身分取扱士族ニ準シ候義ハ従前ノ通タルヘキ事

〔戸籍法〕

一 戶籍法中右等ニ抵觸ノ廉ハ總テ廢止候事

○第四十七號 明治十一年十月十一日達

逃亡失踪ノ者尋方ノ義ハ明治四年四月達脫籍無産ノ輩復籍規則第七條ニ照シ六ヶ月毎ニ模様申立三十六ヶ月後永尋申付候處自今不及其義候條此旨相達候事但本人逃亡失踪ノ始末及復歸ノ節届出方ノ義ハ從前ノ通ナルヘキ事

○番外 明治十七年一月十日達

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戶長ニ於テ保管スルキハ財産目録ヲ作り郡區長ニ差出候様可致候事

婚姻相續養子養女分家合家及離婚

○華族隱居願 明治三年閏十月十七日 布告

一 華族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願ノ義可爲勝手事但廢疾及ヒ事故ニ罹リ候輩ハ此限ニアラス

一 實子無之輩ハ年齡ニ不拘養子願ノ義可爲勝手事

○士族隱居願 明治三年閏十月十七日 布告

一 士族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願ノ義可爲勝手事

一 實子無之候ハ、年齡ニ不拘養子願ノ義可爲勝手事

○華士族平民結婚 明治四年八月廿三日 布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄互婚姻被差許候條雙方願ニ不及其時々戶長へ可出出事但送籍方ノ義ハ戶籍法第八則ヨリ十一則迄ニ照準可致事

○華士族家督相續 明治六年一月廿二日 第廿八號 布告

今般華士族家督相續ノ義左ノ通

家督相續ハ必メ總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事故アレハ其事實ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子ヘ養子相續願出ヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ヘシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ咎可申付事

幼少ニシテ家督爲致候節ハ親戚又ハ他人ニテモ相當ノ者相撰後見可爲致事

當主隱居致シ實子又ハ養子家督相續致シ候上其相續人多病或ハ不埒ノ義有之歟又ハ病死致シ最前ノ隱居壯健ニテ再相續願出候節ハ聞届不苦事但再相續人ト可稱事

當主壯健ナレモ疾病其外無據事故有之養子致シ候處前當主疾病平癒又ハ事故相解候節再家督致シ右養子ハ實家へ立戻リ候歟又ハ當主他へ縁付候共双方熟談ノ上願出候ハ、聞届不苦事但再相續人ト可稱事

〔戶籍法〕

當主壯年ナレモ疾病其外無據事有之養子致候處前當主疾病平癒又ハ事故相解候節再家督致シ右養子ハ實家へ立戻リ候カ又ハ當主他へ縁付候共双方熟談ノ上願出候ハ、聞届不苦候事

父兄伯叔凡テ目上ノ者子弟甥等ノ目下ノ家ヲ繼承スルモハ相續人ト稱シ養子ト稱スヘカラヌ當主死去跡嗣子無之婦女子ノミニテ已ヲ得サル事情アリ養子難致者ハ婦女子ノ相續差許從前ノ給録可支給事

婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致候ハ、直ニ其夫又ハ養子へ相續可相讓事

○外國人ト婚姻差許 明治十六年三月十四日 第百三號布告

一日本人外國人ト婚姻セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

一外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復センコト願フ者ハ免許ヲ得能フヘシ

一日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

一外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖モ日本ノ不動産ヲ所有スルコト許サス但シ日本ノ國法並日本政府ニテ定メタル規則ニ違背スルコトナクハ金銀動産ヲ持携スルハ妨ケナシトス

一日本ノ女外國人ヲ婚養子ト爲スモノモ亦日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

一外國人日本人ノ婚養子トナリタルモノハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

一外國ニ於テ日本人外國人ト婚姻セントスルモノハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府へ届出ヘシ

○離婚 明治六年五月十五日 第百六十二號布告

夫婦ノ際己ムヲ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖モ夫之ヲ肯セス之カタメ數年ノ久シキヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權利ヲ妨害スルモノ不少候自今右様ノ事件於有之ハ婦ノ父兄弟或親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出不苦候事

○婚姻養子女等戸籍不登記中無効 明治八年十二月九日 第百九號達

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁假令相對熟談ノ上タリモ双方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキモノト看做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業無之様精々論說可致置候事

○第七十五號 明治九年五月二十日布告

明治六年一月第廿八號第五項及ヒ同年八月第三百一號ヲ以テ合家ノ義布告候處詮議ノ次第有之自今被禁止候條此旨布告候事但從前已ニ合家セシ分ハ今後左ノ通可取扱事

〔戸籍法〕

一分家セント欲スル者ハ其合家セシ本人ノ一代中ニ限り復舊スルヲ許ス其子孫ニ至テハ七年第七十三號布告分家ノ例ニ據ヘシ

一戸籍記載方及ヒ刑律上ノ關係ニ於テハ戸主ノ血屬ハ等親ニ依リ其血屬ナキハ等親外ノ親屬タルヘシ

一士族平民合家セシ者ハ總テ士族ニ編入スヘシ

○第九十九號 明治十年十二月廿八日達

平民養子相續人等ノ義ニ付明治九年第五十八號ヲ以テ相違候處士族ト雖モ同様取計不苦候事

○第廿一號 明治六年一月十八日布告

妻妾ニ非ラサル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事但男子ヨリ己レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

○甲第二號 明治十五年二月九日(陸)達

憲兵卒服役中養子分家又ハ他家相續人ヲラント欲スル者ハ一般ノ下士ニ準シ可取扱候事

○第三十六號 明治六年二月五日布告

自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相數事但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二月ヲ以テ一年ト可致事

○第四十一號 明治九年四月一日布告

自今滿二十年ヲ以テ丁年ト相定候事

○第二百三十五號 明治五年八月廿四日達

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名并屋號共改稱不相成候事但同苗同名等無余義差支有之者ハ管轄廳ヘ改名可願出事

○第二百六十五號 明治五年九月十四日布告

自今僧侶苗字相設住職中ノ者ハ某寺住職某氏名ト可相稱事但シ苗字相設候ハ、管轄廳ヘ可届事

○内務省ヨリ改名ノ義ニ付伺 明治十三年一月廿八日

改名ノ義ハ去ル明治六年六月舊新治縣ヘ御裁令ノ旨及ヒ當省ヨリ退々同定候例規ニ基キ農商人ノ戸主營業ノ都合ニヨリ其先代ノ名ニ改稱ヲ願フ者僧侶ノ得度ニヨリ改名ヲ願フ者又ハ同務中ノモノ同苗同稱ノ差支ニヨリ其一方ニ於テ改稱ヲ願フ者等ハ是迄聽許致來候處往々右例ノ外無余義趣ヲ以テ改名願出ルモノ有之即チ農商業ノ都合ニアラスシテ幼名ヲ該家舊來ノ通り名又ハ通字ニ改メ或ハ相續ノ際先戸主ノ名ニ改稱スルヲ僧侶宗規ニヨリ(得度改名)

〔戸籍法〕

ラニア) 改名ヲ願フモノ其他凡ソ今日營業ノ都合ニヨリ改名ヲ要スルノ類ニシテ之ヲ前種類ノ者ニ比考スルニ事實凡ソ大同小異ノ者ナレハ以後同様に許致度就テハ明治五年第二百三十五號公布ノ義別紙案ノ通重ヲテ改正相成様致度此段及上陳候至急仰御裁令候也
別紙

御布告案

明治五年八月第二百三十五號布告但書左ノ通重ヲテ改正候條此旨布告候事

華族、、、、

但同苗同名其營業ノ都合及由緒等管轄廳へ可願出事

指令

伺ノ通營業ノ都合及ヒ由緒等ニ因リ改名ヲ願出ル者ハ管轄廳ニ於テ其者身家ノ都合不得止差支アルモノト認ムルハ改名差許不苦義ト可心得事

○第八十七號 明治九年九月十一日達

宮華族ノ輩令扶等雇入ノ義ニ付テハ明治四年ニ相達候趣モ有之候處右ハ廢止候條自今華族輩令扶雇入並ニ雇免ノ節ハ雇主並ニ雇人共各其本管廳へ届出候様可致候事

(司)甲第一號 明治十年二月五日達

去明治六年十二月十日當省第百九十號布達ヲ以テ雇人名稱ノ義相達置候處今後屆濟ノ有無ニ拘ラス雇主雇人相許諾シテ一月以上ノ期限ヲ定メ雇使スルモノハ雇人ヲ以テ論スヘシ候事

○第二百九十五號 明治五年十月二日布告

一人身ヲ賣買致シ修身又ハ年期ヲ限り其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候義ハ勝手ニ候得共其年限滿七年ニ過クヘカラサル事但双方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ

一平常ノ奉公人ハ一ケ年宛タルヘシ尤モ奉公取續候者ハ證文可相改事

一娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付テハ貸借訴訟總テ不取上候事

○第二百二十八號 明治八年八月十四日布告

金錢貸借引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡シニ可相成物件ニ限り候ハ勿論ニ候處地方ニ寄り間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候事

但期ヲ限り工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限りニアラス

○第百八十四號 明治六年五月三十一日布告

〔戶籍法〕

婦女子ニテ一家相續致候者ハ公私トモ他日證據ト爲スヘキモノハ自印相用可申事

●第七十六號 明治九年五月二十二日布告

華族ノ輩金穀貸借證文及ヒ其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ印ヲ用ユヘシ若シ本人ノ名印ナキモノハ其効無之義ト可相心候事

(司)丁第七十五號 明治十年十月十二日達

契約證書解釋方法ノ義太政官ヘ相伺候處別紙ノ通御伺令相成候ニ付爲心得此旨相達候事
伺書ハ略之

契約書解釋心得

- 一 契約書ヲ解釋スルニハ其文字ノミニ依着スルヨリハ寧ロ其契約ヲ爲シタル双方ノ者ノ旨趣如何ヲ考察スヘシ
- 二 一個ノ條款二様ノ意ヲ帶ルキハ其契約ノ効ナカラシムヘキ意ニ之レヲ解スルヨリ寧ロ其効ヲ生セシムヘキノ意ニ之ヲ解スヘシ
- 三 文詞二様ノ意ヲ帶ルキハ其契約ノ意ニ最モ適シタル意ニ之レヲ解スヘシ
- 四 文意ノ曖昧タルモノハ其契約ヲ結ヒタル地方ノ習慣ニ從テ之ヲ解スヘシ
- 五 習慣上通常記載スル條款ヲ契約書中ニ記セサルモノ仍ホ之ヲ記シタルモノト看做スヘシ

六 契約書中ノ條款ハ皆其全文ノ大意ニ從ヒ互ニ相解釋スヘシ

七 疑ヒノ場合ニ於テハ契約ハ其義務ヲ行フヘキ者ノ利益トナル様之ヲ解釋スヘシ

八 契約書中ノ文詞如何ニ泛キトモ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ者互ヒニ相思擬シタルヘシト推知スルヲ得ヘキ者ヲ除クノ外ハ之ヲ包含セス

九 義務ヲ解釋スル爲メ契約書中ニ一個ノ事項ヲ掲ケタリトモ其契約上當然ノ包含スヘキ事件他ノ事項ヲ除去シタル者ト看做ス可カラズ

○失踪逃亡死亡跡遺留財産ノ處分 明治十一年十一月廿六日
司丁第四十一號達

失踪死亡跡遺留財産處分ノ義ニ付太政官裁令ノ趣左ノ通内務省ヨリ通知有之候條爲心得相達候事

内務省ヨリ通知 明治十一年十一月十八日

失踪並ニ死亡跡遺留財産處分ノ義ニ付別紙寫ノ通太政官ヘ伺ヒ候處即チ朱書ノ通指令相成依テ爲御心得此段及御通知候也

別紙

内務省ヨリ太政官ヘ伺 明治十一年五月十日

失踪並死亡跡遺留財産處分ノ義ニ付テハ追々御指令ノ次第モ有之即今當省ニ於テ右御指揮ニ準

〔戸籍法〕

據シ各府縣へ及指令候得共猶穩當ナラサル廉モ有之更ニ左ノ通更定致度相伺候

一失踪逃亡者遺財ハ家族ニテ保管シ家族ナキハ親族親族ナキハ區戸長役場ニテ保管セ

シメ負債アルモノハ其償却處分モ取計ハスル例ニ有之岡山縣同租稅未納ノ者脱走處分ノ

テ例トス候處右負債處分ノ義ハ種々差間ノ廉モ有之候ニ付以來ハ保管財産中書入質トナリタ

ル分ハ其約定期限ニ至リ償却ノ處分地方官ニテ聞届書入質ニアラサル負債ノ義ハ一切裁

判處決テ經テ償却候様致度

一前條ノ遺財負債ナキカ又ハ負債償却シテ猶余財アル者ハ三十六ヶ月ヲ過キテ復歸セサル

キハ官沒スル例ニ有之候處筑摩縣同村民退轉所有地ノ件ハ八年五月二日御指令並磐前縣

ス右三十六ヶ月ノ期限ハ裁判上失踪者負債處分ノ期限ニテ官沒ノ期限モ之ニ準スルハ穩

當トラス依テ該財産ハ可成丈永久ニ保護スルノ旨趣ヲ以テ自今十年ヲ期滿トシ官沒ノ處

分ニ及ヒ候様致度

一死亡跡相續人無之遺財ハ三十六ヶ月ヲ待タズ直ニ官沒シ負債アルキハ償却スル例ニ有之

第二條割註同御指候處右負債償却處分區別ノ義ハ第一條ノ通取計ハセ候様致度

右ハ各府縣ヨリ續々伺出候事件モ有之義ニ付至急御裁令被下度候也

指令 明治十一年十一月十四日

伺ノ趣ハ左ノ通可相心得事

第一項 區戸長ニ保管スル財産中負債償却處分ノ義ハ其書入質公證ノ有無ニ拘ラス都テ裁

判上ノ處分ニ任シ區戸長ハ之ヲ保存スルニ止ルヘシ

第二項 追テ法律制定迄ハ官沒ノ處分ヲ爲サズ本人歸來セハ其遺財ヲ返付スヘシ

第三項 負債償却處分ノ義ハ第一項指令ノ通

第四章

○地所建物諸規則之部

○地租改正ノ勅諭

明治六年
七月廿八日

朕惟フニ租稅ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナ
リ従前其法一ナラス寛苛輕重率子其平ヲ得ス
仍テ之ヲ改正セント欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採
リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ内閣諸臣ト辯論裁
定シ之ヲ公平畫一二歸セシメ地租改正法ヲ頒
布ス庶幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏
ナカラシメン主者奉行セヨ

○減租ノ詔書

明治十年十月四日

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用費ニ費^{ハカ}ラレズ而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レミ曩ニ舊税法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歳出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ贊クベシ

○第五十號 明治五年二月十五日布告

地所永代賣買ノ義從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候義被差許候事

○第百廿四號 明治五年四月十四日布告

御國內一般地所ノ義銘々所持ノ分ナリ共外國人ニ對シ賣渡候義ハ勿論金銀取引ノ爲メ地所又ハ地券等書入致シ候義ハ決シテ不相成候條末々ノ者ニ至ル迄心得違ヒ無之様各管轄内無遺漏可觸示事

○第廿四號 明治五年八月廿七日布告

地代店賃ノ義從來東京府下ヲ始メ問々其制限ヲ立置候向モ有之哉ニ相聞候處以來ハ雙方共相對ヲ以テ取極メ致貸借候義勝手タルヘク事

一諸奉公人諸職人雇夫等給金雇料ノ義是迄自今雙方共相對ヲ以テ取極候義勝手次第タルヘシ尤モ諸職人等は迄得意或ハ出入場ト唱ヘ常雇ハレ先キヲ極メ置候分雇主方ニテ他ノ職人雇入候節彼是故隙筋申掛ノ者モ有之由向後右様心得違無之様可致事

○第百九十四號 明治六年六月八日布告

田畑石高ノ稱テ廢シ總テ反別ヲ以テ換用候事

○隱田切開切添地規則 明治九年五月十二日第六十七號布告

〔隱田切開切添地規則〕

隱田切開切添地等ノ義ニ付テハ明治五年九月大藏省第百廿六號布達地券渡方規則中第廿一條及明治六年九月第三百十五號ヲ以テ布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被定候事

第一條 隱田開切地添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申出ルキハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第二條 廉落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス該府縣地租改正濟迄ニ申出ルキハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

第三條 官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ルキハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以可拂下其民有地トナシ難キモノハ直ニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許義モコレアルヘシ

第四條 前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條 前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリモ未タ地代金ヲモ納メスシテ未着手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以テ其者へ可拂下其地代金ヲ納メス凡ソ已ニ着手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

第六條 凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシテ差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主ハ其儘無代價ニテ下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律ニ照シ處分スヘシ

●滋賀縣ヨリ開墾地許可以前着手候者處分方ノ義ニ付内務大藏兩省へ伺 明治十六年三月十六日

民有地ヲ開墾セントスルキハ明治七年第百二十號布告ニヨリ出願許可ヲ請フヘキ筈ノ處往々無願ニテ着手スル者有之夫レヲ問フヘキ法律ナキヲ以テ右等ノモノハ本縣限リ左ノ通取扱度候

一 無願ニテ開墾着手セシモノハ其地ノ熟否ニ拘ハラス直ニ其開墾地目畑ニ改メ近傍同地目比準ノ地價ニ修正シ一切餘下年期ヲ與ヘサルモノトス

一 無願ニテ開墾シ後發覺シタルモノハ其開墾着手セシ年ニ遡リ修正地價ニ據リ地租追徴スルモノトス

〔隱田切開切添地規則伺指令〕

右ノ通相定メ管下ニ布達致度御差問無之候ハ、御允許可被下度此段奉伺候也
指令 明治十七年 一月廿三日

伺ノ趣無願開墾スルモノハ九年第六十七號公布第一條ニ據リ十四年第七十二號公布第四條ヲ以テ處分スヘキ義ニ付キ別段取締向管内布達ニ不及ト可心得事

但處分濟ノ上第一項二項共現地目ニ據リ着手ノ年ニ遡リ相當ノ地價ヲ査定シ徵收スル義ト心得ヘシ

九月六日第
八十三號

○朱黑印地賣買規則

明治九年五月
十二日布告

明治三年^{十二月}社寺領現境内ヲ除クノ外上地ノ義布告候處朱黑印除地上地ノ中内質ハ賣買又ハ質地ト相成候者モ有之哉ノ趣不都合ノ至ニ候得共此布告以前ニ係ルモノハ特別ノ詮議ヲ以テ其罪ヲ問ハヌ更ニ民有地トナシテ差支無之分ハ賣買地ハ買得者ハ流質地ハ質取主ヘ其儘無代價ニテ下渡シ質地年限中ノ分ハ上地セシムヘク若シ此布告以後ニ係ルモノハ律ニ照シ處分スヘク候事

明治十五年
一月第六號

○民有荒地處分規則

明治十年一月廿日
第八號布告

第一條 荒地トハ山崩川欠押堀石砂入河原成池成川成海成湖水成等ノ天災ニ罹リタル土地ヲ云フ

第二條 民有地荒地トナリタルキハ荒地一筆限帳^{字番號一筆限步數持主姓名及ヒ}并ニ荒地繪圖^{荒地ニ係ルモノ及接續ノ地形迄ヲ詳細ニ}出サシメ畝杭ヲ建サセ境界ヲ明瞭ニシ其廣狹ヲ丈量シ反別ヲ限リ損害ノ輕重ヲ區別シ該地接續ノ生地圖面ヲモ照合シ免稅ノ年限ヲ定ムヘキモノトス

第三條 荒地免稅ノ年期ハ其損害ノ輕重ト起返シノ難易ニ據リ實地ニ應シ損害ノ年ヨリ十年以内ヲ以テ相當ノ年期ヲ定ムヘシ滿期ニ至リ檢査ヲ經テ猶起返シ能ハサルモノハ年期ヲ繼クヘキモノトス

第四條 川成海成湖水成等ノ荒地ニシテ地主持繼クヘキ望ミアルモノハ十年迄ノ年期ヲ定メ無代價ノ券狀ヲ付與スヘシ但右ノ場合ニ於テ所有主其土地起返シノ爲メ杭棧打連ヲ若クハ藩柵取設ケサルモノハ他人ノ漁魚採藻等ヲ拒ムノ權ナキモノトス

第五條 右年期明ニ至リ原形ニ復セサルモノハ又十年以内ノ年期ヲ繼キ猶依然タルモノハ付與スル處ノ券狀ヲ還納セシメ荒地ノ名稱ヲ除去シ全ク川海湖地^{即チ}歸スルモノトス且此布告以前ニ係ル川海湖水成等ノ荒地ハ本年ヨリ^{地租改正既濟ノ府縣ニテ荒地}起算シ本條ニ據リ處分スヘキモノトス

第六條 池成ノ荒地年期明ケニ至リ假令原形ニ復セサルモ水草魚鳥等ノ收利アルモノハ其

〔朱黑印地賣買規則〕〔民有荒地處分規則〕

利益ニ應シ地價ヲ定メ生地ニ組換ヘ池ト稱スヘシ
第七條 荒地年期中竹木蒼茂ノ類自然ニ生立多少利益アルモノハ年期明ノ際ヨリ敷林地生
地等ノ部分ニ組換フヘキモノトス

第八條 荒地年期明ニ至リ起返ルモノハ荒地起返一筆限帳ノ荒地一筆限帳荒地起返繪圖荒地
ニヨリ之ヲ製シ該地ニ接續スル從來ノ生地ト起返地及猶チ出サシメ畝杭ヲ建サセ一筆限
荒地ニテ殘ルモノアレハ一々明瞭ニ色分ヨリサシムヘシ
耕地ノ分ハ畦畔ヲ除キ更ニ實地ヲ丈量シ該地ニ接續スル從來ノ生地及猶荒地ニテ殘ル
モノアレハ之ヲ地券臺帳荒地帳面等ニ照シ綿密検査ヲ經起返反別ヲ定メ而シテ地價ヲ調
査スヘキモノトス

第九條 免稅年期明ニ至リ其實況直ニ原地價ニ復シ難キモノハ五割以内ノ減額ヲ以テ更ニ
五ケ年以下低稅年期ヲ付シ其期明ニ至リ原地價ニ復スヘキモノトス

第十條 低稅年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノハ近傍ノ地ニ比準シ更ニ相當ノ地價ニ
付スヘキモノトス

第十一條 免稅年期明ニ至リ地目變換セルモノハ現地目ニ組換ヘ近傍ノ地ニ比準シ相當ノ
地價ヲ付スヘキモノトス

○地所名稱區別

明治七年十一月七日
第二百二十號布告

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

一 皇宮地 皇宮離宮等ヲ云フ

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社
及民有ニ在ラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セ
ス唯帳簿ニ記入シ但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡スルハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸 官用地 官院省使寮司府藩縣本支廳裁判所警視廳陸海軍
本分宮其他政府ノ許可ヲ得タル所有ノ地ヲ云

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ
貸渡スルハ其間借地料ヲ納メシムヘシ

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ

一 鐵道線路ノ敷地

一 電信架線柱敷地

一 燈明臺敷地

一 各所ノ舊跡名區及公園等民有地ニアラサルモノ

一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

〔地所名稱區別〕

- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場
- 第四種 地券ヲ發セス地稅ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
 - 一 寺院大中小學校説教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ
- 民有地
- 第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス
 - 一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
 - 一 人民數人或ハ一村數村所有ノ確證アル學校病院郷倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
- 第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
 - 一 官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云
 - 一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地
 - 一 公衆ノ用ニ供スル道路但其地形ヲ變換スルハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

● 神奈川縣ヨリ民有地第二種ノ土地荒地トナリタルキ年期附與方其他ノ義ニ付大藏省ヘ伺
 明治十八年
 四月廿三日

- 民有第二種ノ地荒地トナリタル處分方ニ付テハ別ニ例規モ無之ニ付左ノ通相心得可然哉
 - 一 民有第二種ノ地荒地トナリタルキハ十ヶ年已内相當年期ヲ付與シ原地目ニ復サシムルモノトシ年期明ニ至リ原地目ニ復セサルキハ繼年期ヲ付與シ再應ノ繼年期ニ制限ナキモノト心得ヘキ哉
 - 但原地目ニ復サ、ルモ有租地地目ニ變スルキハ有租地成トナスハ勿論ナルヤ
 - 一 右荒地券記載方ノ義ハ有租地ノ例ニ倣フヘキ哉
 - 一 海成川成湖水成ノ如キハ再應繼年季ノ末到底原地ニ復シ難キモノト視認スルキハ海川湖ニ歸シタルモノトシ地券還納セシムヘキ哉
 - 一 荒地臺帳ハ有租地ノ例ニ倣ヒ適宜調製シ可然哉
 - 一 御省十七年第五十六號御達地租表其他様式中免租地段別表記載方ハ反別ノ目ヘ横線ヲ引キ内荒地反別ノ一區ヲ設ケ記入シ可然哉
- 指令 明治十八年
 八月廿六日
- 伺ノ趣左ノ通相心得ヘク事

〔地所名稱區別〕

第一項 民有第二種ノ地ハ荒地トナルモ年期ヲ付與スルニ及ハス
第二項 伺ノ通

第三項 海成川成湖水成以後三十年經過シ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノ
ハ川海湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシムヘシ

第四項 十七年當省第八十九號達免租地臺帳中増減欄内へ朱字ヲ以テ其員數等ヲ掲記シ
而シテ差引現在額欄内反別ノ内書ニモ記載シ置クヘシ

第五項 十七年當省第五十六號達免租地反別表中反別ノ内書ニモ記載スヘシ
○公用土地買上規則 明治八年七月廿八日 第三百三十二號達

明治十五年
十二月第六
十四號
全十六年第
五十號

第一則 公用土地買上トハ國郡村市ノ保護便益ニ供スル爲メ院省使應府縣ニ於テ人民所有
ノ土地ヲ買上ルヲ云國郡村市ノ保護便益ニ供スルヲメ人民ニテ鐵道電線上水等ノ大土工
ヲ起スルハ其事業ニヨリ特別官許ノ上此規則ニ準スルヲ得ヘシ

第二則 公用買上ハ必ス其地ヲ要セサルヲ得サルニアラサレハ之ヲ行ハサルモノトス故ニ
人民之ヲ拒ムヲ得ス但其地ニ屬シタル植物建造物等モ亦本文ニ同シ

第三則 院省使ニテ公用土地買上ヲ要スルハ左ノ事由ヲ內務省ニ照會シ內務省ヨリ地方
官ニ諮問シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル上該廳ヨリ太政官ニ上陳允裁ヲ得ルモノトス

應府縣ニテ公用土地買上ヲ要スルハ左ノ事由ヲ具狀シテ內務省ニ稟請シ內務省ヨリ太
政官ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス

內務省ニ照會又ハ稟請スヘキ事由左ノ如シ

一 土地ヲ買上ルノ事由 一 該地ヲ必需スルノ事由
某管轄國郡村市

一 該地ノ番號 一 該地ノ字 一 該地ノ地種 一 該地ノ地主 一 東西何程南北何
程 一 方積何程但該地ノ實測圖ヲ添ル者トス

實測圖ハ近傍ノ地形ヲモ略記スヘシ

第四則 公用ノ買上ル地價ハ券面ニ記シタル代價タルヘシ然レモ地價相違ヲ生セシキ
ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ商議ヲ以テ代價増減スルヲアルヘシ但明治五年二月十四日
以前潰地又ハ用地申付爲手常作德米等ヲ渡シ來リタル土地ハ同年ヨリ同七年迄三ヶ年ノ
貢納石代平均ノ價ヲ以テ作德米七ヶ年ノ金額ヲ一時ニ下渡シ買上ルモノトス

第五則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ併セテ買上ルハ地價ノ外別ニ植物建造
物等ノ代價ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ協議クルヘシ

第六則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ケサルハ地價ノ外別ニ植物建造物

〔公用土地買上規則〕

等ノ轉移料ヲ渡スヘシ轉移料ハ所有者ト土地ヲ買上タル該應トノ協議タルヘシ
第七則 土地ヲ買上ヘキ該應ハ植物建造物等ヲ買上タルヲ要セスト雖モ人民植物建造物
等ヲ併セテ買上ケンヲ求ルキハ第五則ノ通りタルヘシ

第八則 土地植物建造物等ノ買上代價及ヒ轉移料ノ見込所有者ト該應ノ間ニ許多ノ差違ヲ
生シ熟議ニ至リ難キハ雙方ヨリ各一人ヲ出シ地方官之ヲ折衷シテ内務省ノ決ヲ請ヒ之
ヲ定ムルモノトス

第九則 地方官土地及ヒ植物建造物等ノ買上テ公達シタルキハ直ニ買上代價ヲ渡スヘシ

第十則 人民買上代價ヲ受取タルキハ買上ケラレタル土地植物建造物等ヲ三十日以内ニ渡
スヘシ然レモ買上ケ前ニ該應ト別段ノ契約ヲ結ヒタルハ特別トス

第十一則 土地買上ノ際事業ノ急施ヲ要スルキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ達シ三十日以上ノ期
日ヲ定メ代價ヲ申出シムルヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付雙方見込相協
ハサルキハ更ニ建物アル地ハ三十日以上建物ナキ地ハ十日以上ノ期日ヲ定メ其期日迄ニ
之ヲ引渡スヘキ旨ヲ達スヘシ但各其期日内ニ雙方共現在ノ實況及其見込ノ代價ヲ詳記シ
評價人ノ意見書ヲ添ヘ地方官ノ認印ヲ受置クヘシ

第十二則 第十一則ノ場合ニ於テハ所有者ノ請求ニヨリ土地ニ付テハ券面地價十分八ノ金

額建造物等ノ轉移料又ハ代價ニ付テハ假定ノ金額^{地方官實況ニヨ}渡置キ代價決定ノ
上精算スヘシ

(丙)甲第廿二號 明治八年六月廿九日達

明治八年第百六十號公達土地買上ノ義ハ同九年當省乙第八十九號達ニ依リ同年十月三十一
日限可申出ノ處即今ニ至リ右買上方向出候向モ有之不都合不少ニ付猶取調漏ノ分有之候共
三ヶ月以内(管下布達ノ日付ヨリ)ニ申出サル者ハ一切採用セサル旨管下ニ布達スヘキ事
(丙)乙第百十三號 明治十年十二月廿日達

院省使ニテ官用ノ爲メ土地ヲ要スルキハ八年太政官第百三十二號達公用土地買上規則ニヨ
リ所用應ヨリ當省ヘ照會相成候ヘハ當省ニ於テ實地差支有無等諮詢致來候處自今便宜ノ爲
メ所用應ヨリ直ニ地方官ニ協議シ實地差支等無之上當省ニ照會相成候ヘハ當省ニ於テ地方
官ヨリ所有應ヘノ回答書ニ依リ別ニ諮詢不致候條所用應ヨリ協議相成候節ハ右規則ニ據リ
無遺漏取調民有地ノ分ハ差支有無相答可申尤官有地ニ係ル分ハ實地差支有無取調ノ上當省
ヘ協議可相成旨相答置同時當省ヘ可申出候事

但官有ノ建物立木有之節ハ相當代價本文同様取調候義ト可心得事
●新潟縣ヨリ地方稅ニテ土地買上ノ義ニ付内務省ヘ伺 明治十五年九月十五日

〔公用土地買上規則〕

人民一己ノ所有地ヲ地方經濟ニテ買上學校或ハ病院敷地ニナサント欲スル節ハ公用土地買上規則ニ準シ不苦哉此段相伺候也

指令 明治十六年八月三十一日 (伺ノ通)

明治十五年七月第三十五號

○買上拂下遺地規則 明治十年二月十三日第十八號布告

- 第一條 民有地ヲ買上ルル其年分ノ稅ハ買上タル前月分月割ヲ以テ收入スヘシ
- 第二條 官有地ヲ拂下ルル其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ
- 第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池通路堤塘敷其他遺地トナスルハ工事着手ノ月ヨリ除稅スヘシ一旦着手スルモ若シ工事中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス

但七ヶ年以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトス (内)甲第二十一號 明治十八年六月廿五日達

官有地拂下并ニ貸下ノ義左ノ通相定メ明治九年三月内務省乙第三十四號達ハ廢止ス

一凡ソ官有地ヲ年賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳ヘ差出サシムヘシ若シ之ヲ差出サルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス

一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ既

納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等ヲ下付スルコトナカルヘシ

一凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其代價ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ假令何如ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルコトナカルヘシ

一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タルモノハ其當初願出ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人ヘ書入又ハ質入ヲ爲スコトヲ得サル者トス但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(内)甲第二十二號 明治十八年六月廿九日達

明治八年第六十號公達土地買上ノ義ハ同九年當省乙第八十九號達ニ依リ同年十月三十一日限可申出ノ處即今ニ至リ右買上方伺出候向モ有之不都合不少ニ付猶取調漏ノ分有之候共三ヶ月以内旨下布達ノニ申出サル者ハ一切採用セサル旨管下ニ布達スヘシ

(内)甲第三十六號 明治十八年十二月三日達

官有ノ川敷溝敷寄洲沼地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下タルモノハ當期ヲ限り返地セシムヘシ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下クルコトヲ得ルト雖モ治水ニ妨害アル構造ヲナシ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル義ト心得ヘク候事

〔買上拂下遺地規則〕

○地租條例

明治十七年三月十五日
第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣ハ當分從前ノ通タルヘン

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セズ

第三條 有地租ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地

第二類 池沼山林原野雜種地

第一類中又ハ第二類中各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變

シタルモノヲ荒地ト謂フ

▲(大)第三號 明治十八年
二月六日達

明治十七年第七號布告第三條ニ於テ有租地ノ地目ヲ被定候ニ付テハ爾來地券書換ノ都度該第三條ニ掲ケル處ノ地目ニ訂正シ尙ホ地番號ノ下ニ朱字ヲ以テ現地ノ名稱ヲ附記スヘシ
第四條 公立學校地鄉村社地墳墓地用惡水路溜池隄塘井溝及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

▲(大)第五十九號 明治十七年八月
十二日達

地租條例第四條ニ掲ケル公立學校地及鄉村社地免租ノ義ハ自今處分濟ノ上其事由ヲ具シ毎三ヶ月取纏メ翌月三十日限り届出ヘシ

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十反ヲ町ト爲ス但布街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勾ト爲ス

第六條 開墾後下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ムルトキ又ハ地目變換スルルハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

〔地租條例〕

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス
第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現
況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ
第十三條 有租地ヲ公立學校地鄉村社地墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得テ月分ヨリ月
割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路溜池隄塘井溝公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ其地
工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有地租ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得テ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ鍍下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徵收
ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ鍍下
年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 鍍下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此
場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ鍍下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 鍍下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内鍍下繼年期ヲ許
可ス

第十九條 鍍下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ
變スル者ハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低
價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原地目ニ
復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租繼年期ヲ
定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以
内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川
海湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ

〔地租條例〕

依り地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコト得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地
ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依り地租ヲ定メ其地租
増額ヲ追徴ス但地租改正ノ以前ニ溯ルコト得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキ
ハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其
罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ尙ホ之ヲ納メシム

地租條例取扱心得書

第一條 凡ソ土地ノ丈量ハ三斜法ヲ用ヒ地主之ヲ爲スヘシ

第二條 凡ソ間未滿ノ尺度ノ六尺ノ十分ノ一ヲ分ト爲シ十分ノ一ヲ釐ト爲シ丈量ノ際端
尺三寸ヨリ五尺七寸迄三寸ヲ増ス每ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨五釐ニ止ムヘ
シ即チ四寸又ハ五寸ヲ得ルハ一寸又ハ二寸ヲ切捨三寸此六除五厘トナ其積算上ニ於テ
ハ一步未滿ヲ切捨ツヘシ

但一筆ノ土地コシテ一步未滿ナルモノハ合勻迄ヲ用フヘシ市街宅地ハ丈量上ニ於テ釐
未滿ヲ切捨釐位ニ止メ厘ハ六尺ノ百分ノ一即曲尺六分ヲ云其積算上ニ於テハ壹勻未滿ヲ切捨勻位ニ止ム
ヘシ壹勻ハ即チ一坪ノ百分ノ一即チ一ツ云フ

第三條 田畑ノ丈量ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ打詰ニ爲スヘシ

第四條 田畑ノ畦畔其地主自由ニ變更スヘキモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモ
ノハ之ヲ除却ス除却セシ畦畔ノ步數ハ之ヲ本地ノ畑宅地ノ一筆ノミニ用フル通路及一筆
内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入スヘシ

崖高ノ地其崖脚中ノ畝入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ崖脚ニシテ多少ノ收利アル
土地ハ本地ニ量入若クハ一筆ニ丈量スヘシ

一筆ノ田畑宅地内ニ孕在スル雜種地等ハ之ヲ本地ニ量入スヘシ

モ妨ケナシ

第五條 山林原野雜種地等ハ其實際ノ平斜面ニ應シ三斜法其他適宜ノ方法ヲ以テ丈量スル
第六條 土地ノ丈量又ハ地位地價等主務官吏實地檢査ノキハ地主ニ於テ每筆字名地番號地
目反別及地主ノ氏名ヲ記載セル畝杭ヲ建テ其町村戸長並地主之レニ立會フヘシ
但戸長ハ戸長役場ニ備アル地租改正地圖及野帳地價帳等ヲ携帯スヘシ

〔地租條例〕

第七條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正セントスルキハ其町村戸長及地主ヨリ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ尙其地ノ情況又ハ現況ニヨリテ地位等級ヲ定ムヘシ
前項ノ場合ニ於テ地主多數ナルキハ其地主中ヨリ二名以上五名以下ノ總代人ヲ撰ミ其總代人ニ於テ地位等級ヲ定メ主務官吏檢査ノキ之レニ立會フヘシ
主務官吏實地檢査ノ節該地位等級ヲ不適當ト認ムルキハ更ニ戸長地主又ハ總代人ヲシテ再評セシムルコトアルヘシ
地位ノ評定ニ係ル一切ノ費用ハ地主ノ負擔タルヘシ

第八條 一町村内ニ於テ地目及ヒ地位等級ヲ同フスル土地ハ收穫利率モ亦同一トシテ其地價ヲ定ムヘシ

第九條 地價ハ收穫利率及ヒ檢査石代^{利率及ヒ石代トモ地租ニ依リ其種肥料ヲ收穫ノ一割五分ト爲シ左ノ算則ニ據リテ定ムヘシ}

地價算則

田畑ハ收穫物ノ内ヨリ種肥料ヲ引去リ其殘數ニ檢査石代ヲ乘シ實ト爲シ其他ノ地目ハ所得金ヲ以テ實ト爲シ地租率百分ノ三^{地租改正ノ節ト地方稅率百分ノ二}トシテ地方稅率百分ノ二^{地租改正ノ節ト村費ト稱セン}トトシ合シ之ニ利率ヲ加ヘ法トナシ法ヲ以テ實ト除シ得ル數ヲ地價ト爲ス

第十條 地目ヲ變換^{第一類中ニ於テ田畑ニ畑ヲ宅地ニ第二類中ニスルモノハ其土地ノ原地目反別及丈量シタル現地目反別等併記シタル屆書式第一號書地圖ノ乙號地形及地價取調書式第三號書ヲ製シ届出ヘシ}

但其年前半年^{自一月至六月}ニ係ル分ハ七月五日後半年^{自七月至十二月}ニ係ル分ハ翌年一月七日ヲ經過スヘカラス

第十一條 免租地^{用惡水路溜池堤塘道路墳墓地等}ヲ有租地ニセントスルモノ其許可ヲ得タル時ハ更ニ實地丈量シ其反別調書^{式第六號書}地圖^{乙號地形}地價取調書^{式第九號書}ヲ製シ右許可ノ時ヨリ二十日以内差出スヘシ

第十二條 有租地ヲ免租地^{田畑宅地山林其他ノ地目ヲ公立學校地鄉村地墳墓地トシ又コセントスルモノ}其許可ヲ得タルトキハ條例第十三條ニ據リ免租額及其反別等ヲ記シタル書面^{式第八號書}ヲ製シ許可ノ時ヨリ二十日以内差出スヘシ
但條例第十三條第一項末段ニ係ルモノハ其工事ニ着手セシ一筆限リ本條ニ據リ取調着手ノ翌月五日限リ差出スヘシ

第十三條 土地ヲ開墾セントスルモノハ其地目ヲ定メタル反別ノ仕譯等ヲ記シタル願書^{式第一號書}及地圖^{甲號地形}ヲ製シ其時々願出ヘシ

〔地租條例〕

第十四條 開墾願濟ノ土地該許可ノ年内中ニ竣功スルモノハ其土地ノ原地目反別及ヒ丈量シタル現地目反別等ヲ併記シタル地價取調書第三號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如クヲ製シ右竣功ノ時ヨリ二十日以内差出スヘシ

但該年内ニ開墾竣功ニ至ラサルモノハ第十五條ニ據ルヘシ

第十五條 開墾願濟ノ土地竣下年期ヲ乞ハントスルモノハ其費額ヲ豫算シ之レヲ參照トシテ條例ニ定ムル期限内ニ於テ相當ノ年期ヲ定メ其反別及原地目地價等ヲ記シタル願書第四號書式ノ如クヲ製シ開墾ノ許可ヲ得タル日ヨリ二十日以内願出ヘシ

第十六條 開墾年期明ニ至リ繼年期ヲ乞フモノハ前條ニ準據シ該期明ノ年一月二十日以内願出ヘシ

第十七條 開墾竣下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ反別丈量調書第六號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如ク及地價取調書第七號書式ノ如クヲ製シ其時々届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ更ニ竣下年期ヲ乞フモノハ其反別ヲ區別シ第十五條ニ準據シ相當年期ヲ定メタル願書ニ地圖ヲ添ヘ前項届出ノキ一同願出ヘシ

第十八條 開墾竣下年期明竣功ノ土地ハ反別丈量調書第六號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如ク及地價取調書第七號書式ノ如クヲ製シ該期明ノ年一月二十日以内差出スヘシ

第十九條 有租地ノ荒地トナリタルキ其免租年期ヲ乞ハントスルモノハ原地目原地價ニ復スルノ難易ヲ圖リ條例ニ定ムル期限内ニ於テ相當年期ヲ定メ其反別ノ仕譯ヲ記シタル願書第五號書式ノ如ク及地圖甲號雜形ノ如クヲ製シ被害後三十日以内願出ヘシ

第二十條 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難クシテ低價年期ヲ乞ハントスルモノハ條例ニ從ヒ低價額及相當ノ年期ヲ定メ其反別丈量調書第六號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如ク及地價並原地價ヲ一筆限リ記シタル願書第七號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如クヲ製シ該期明ノ年一月二十日以内願出ヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シタル土地又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キ土地或ハ免租年期明ニ至リ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變更スル土地ハ反別丈量調書第六號書式ノ如ク及地圖乙號雜形ノ如ク及地價取調書第七號書式ノ如クヲ製シ該期明ノ年一月二十日以内差出スヘシ

第二十二條 荒地免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スル土地免租繼年期ヲ乞ハントスルモノハ第十九條ニ準據シ該期明ノ年一月二十日以内願出ヘシ

第二十三條 條例第二十四條ニ據リ地券ヲ還納スルキハ其反別及情況ヲ詳記シタル書面及地圖甲號雜形ノ如クヲ以テ該期明ノ年一月二十日以内届出ヘシ

〔地租條例〕

第二十四條 民有地買上ケ等ニテ官有地トナリタルキハ其反別及除稅額（廢地アレハ更ニ之額等チ記シタル書面第八號書ヲ製シ達或ハ指令ヲ得タル時ヨリ二十日以内差出スヘシ）及
 第二十五條 官有地ヲ拂下又ハ下ケ渡等ニテ民有地トナリタルキハ更ニ實地ヲ丈量シ其反
 別調書第六號書地圖乙號形地價取調書第九號書ヲ製シ達或ハ指令ヲ得タル時ヨリ二十日以内ニ差出スヘシ

(離形略ス)

(大第四十九號 明治十八年 八月三日達)

民有地々價租額ニ關スル處分左ニ掲クルモノハ今後委任候條例規ニ準據シ處分濟ノ後左ノ
 離形ニ倣ヒ届出ヘシ

開墾地 墾下年期明及年期ヲ要セサルモノ

荒地 免稅年期明

地目變換

官有地拂下及無代下渡

右四項ハ一回ノ調査一町村內其反別一類地一町步未滿二類地五町步未滿ノ地價租額ヲ
 査定スルヲ

免租地組換及畦畔廢除有租地成

改租以前ノ開墾地 墾下繼年期有租地成

右二項ハ段別ノ多寡ニ係ラス地價租額ヲ査定スルヲ

畦畔新設

右ハ步數ノ多寡ニ係ハラズ其地價租額ヲ除却スルヲ

地租増減ニ係ル伺届ハ左ノ期限表ニ據リ進達スヘシ

但該期限ニ伺届ノ事項ナキキハ其旨主稅局ヘ報道スヘシ

右相違候事

開墾地荒地地目變換等ノ處分伺届ハ十七年四月五日
 當省達地租條例取扱心得書ノ離形ニ準シ調製スヘシ

△印ハ朱

一 地目中賦租
 起月ノ異ナル
 モノ毎ニ之ヲ
 列記スヘシ
 一 拂下下渡其他
 事故
 ルモノ
 ハ其旨
 腹書ニ
 詳記ス

明治何年 自何月 地租賦課届

何國何郡(區)

種目	地目	段別	地價	地租	該地處分 賦租ノ 主務省伺 起月	月割地租	翌年ニ 渉ル地租
田				同乘算 過不足	同乘算 過不足		

〔地租條例〕

(大)第廿四號 明治十七年四月廿五日達

官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲ爲サントスルモノハ該埋立テ竣成シ民有地ニ編入テ經タル上地租條例ニ定ムル所ノ開墾鍤下年期ヲ付與候義ト可心得候事

(大)第二十九號 明治十八年六月五日達

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサルキハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムルタメ代人ヲ定メ土地所轄ノ戶長役場ニ届置カシムヘシ

●埼玉縣ヨリ地租條例中疑義ノ義ニ付キ大藏省ヘ伺 三月廿九日

第一條 本年第七號布告地租條例第三條中第二類地(地沼山林原野雜種地)ニ勞費ヲ加ヘ第一類地(田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地)トナスモノヲ開墾ト謂フトアリ然ルトキハ山林原野ヲ宅地トナシ鍤下年期ヲ要セサルモノハ地目變換ト同視シテ取扱然ルヘキ哉

第二條 同上第十三條ニ有租地ヲ公立學校地鄉村地墳墓地トナストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ストアリ右ハ民有地ノ變換ヲ指シタルモノコト民有地ヲ官ニ買上又ハ官有地ヲ拂下ケタル收稅除稅區分ノ義ハ十年第十八號布告第一條(民有地ヲ買上ルキ其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ)第二條(官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ)ニ準據取扱可然哉

第三條 同第二十一條ニ免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低稅年期ヲ定メ云々トアリ例ヘハ原收穫一石ノモノ七斗ノ收穫ニ起返ルキハ之ヲ七割低價トシ一斗ニ起返ルトキハ一割ト稱スヘキヤ

第四條 同第二十二條ニ低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムトアリ然ルニ免租年期中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナスモノハ十年地租改正事務局御省運署乙第六號達第四條(荒地免稅年季中宅地トナスモノハ宅地トナリタル翌年ヨリ該宅地相當ノ地價ヲ定メ課稅スヘシ但池成沼成等ノ荒地ヲ埋堆シ宅地トナスカ如キ非常ノ勞費アルモノハ伺テ經テ其年季中免稅ニ据置ヘキモノトス)ニ照準取扱然ルヘキ哉

指令 五月五日

第一條 鍤下年期ヲ要セサル者ト雖モ開墾トス地租ハ其翌年分ヨリ更定地價ニ據リ徵收スヘシ

第二條 申出ノ通

第三條 七割以下ノ低價年期ヲ定ムトハ原地價ヨリ七割以内ヲ減シタル定價年期ヲ定ムヘキモノトス

〔地租條例伺指令〕

第四條 免租年期中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナス者ト雖モ條例第二十二條ニ據リ處分スヘシ

但十年地租改正事務局連署當省乙第六號達ハ消滅ス

●福島縣ヨリ地租徵收方ノ義ニ付大藏省ヘ伺 明治十八年 十月二日

地租ハ該條例第十二條ニ據リ地券記名者ヨリ徵收スヘキニ賣買讓與ノ爲メ地券書換裏書出願シ證印稅ハ直ニ上納スルモ券狀下與以前ハ賣渡讓渡人ヨリ地租徵收スヘキハ勿論ト存セラレ候得共爲念此段相伺候也

指令 明治十八年 十月廿七日

伺ノ趣ハ地券書換出願ノ際證印稅ヲ徵シ其日付ヲ以券狀下付スヘキ義ニ候條券狀記名者即チ買受讓受者ヘ對シ徵收スル義ト可相心得事

○土地賣買讓渡規則 明治十三年十一月三十日 第五十二號布告

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ(賣買讓渡)證文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戶長役場ニ差出シ與書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ 但一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及ヒ坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添テ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フモノアレハ地所賣入書入與書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ(賣買讓渡)證文ニ與書割印ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人(賣買讓渡)證文ヲ領收スルトキハ地券(書換裏書)願書ニ雙方連印ノ土地券ヲ添ヘ戶長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得ルト雖モ地租并ニ地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但シ地券紛失ノ際下付願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戶主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族(親族ナキ者ハ近隣ノ戶主)ト連印ノ上戶長役場ヲ經テ地券(書換裏書)願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ戶長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス

但シ本條期限内ニ地券(書換裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ在ラス

○第七號 明治十六年 二月二日達

〔土地賣買讓渡規則〕

地稅不納及ヒ賍金追徵民事身代限等凡ソ法律上公賣處分ヲ經タル地券書換ノ訴件ニ付該裁判確定シタルモノ、地券書換願書ハ舊所有者ノ連署ヲ要セス候條買受人若クハ權利者ヨリ其證左チ添付シ戸長與印ノ上出願候ハ、書換下付シ舊所有者所持ノ地券ハ無効ノ旨命令シテ還納セシムヘキ義ト心得ヘシ候事

但シ從前ノ達指令等本文ニ抵觸候分ハ廢止トス

○土地分割取扱手續 明治十五年一月三十一日達

第一條 買賣讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケ地券書換ヲ請ハント欲スル者ハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其書面ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第二條 戸長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキトキハ與書割印ヲ爲シ若シ反別實價配分上不適當ノ者アリト認ムル場合ニ於テハ其旨ヲ説諭シ願人承服セサルキハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管轄廳ニ具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受クルキハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ
但買賣讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨル

ヘシ

明治六年

月第六號

明治七年

月

○地所質入書入規則 明治六年一月十七日 第十八號布告

第一條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所ト證文トヲ渡シ貸主其作德米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候テ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所ト引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ノ作德米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候ヲ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候テモ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年限ノ儀ハ三ケ年ヲ限ルヘシ尤モ三ケ年以下期限取極候節ハ勝手タルヘシ且ツ年限取極候廉ハ判然證文面ニ記載致シ置可申事

但書入ノ義ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致シ置可申事

第五條 (明治十二年第七號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)

質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊

〔地所質入書入規則〕

地主ヨリ金主へ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加判ノ上金主ヨリ地券相添へ確認ノ證ヲ可願出事

第六條 質入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致等ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候義ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事

但管轄廳へ届出ニ不及候事

第八條 管轄運ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取候節ハ其現地ノ村町へ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

第九條 質入又ハ書入證文ニハ必ス其村町戸長ノ與書證印ヲ取ル可シ其町村戸長役場ニハ與書割印帳ヲ備へ置證文ノ與書割印ヲ願出ルトキハ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ與書ヲ爲スヘシ若シ戸長ノ與書並ニ割印ナキ證文ハ質入又ハ書入ノ證據ニ不相成ニ付キ右證文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ可受事

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長與書調印スヘシ

第十條 一ヶ所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主へ引當ニ入レ置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添へ致シ候儀ハ不苦尤モ借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ先ツ第一番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘第二番ノ金主へ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルトキハ其不足ノ分ヲ償フコト并ニ第三番以下ノ金主ニ償フコトハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ隨ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但第二番ノ金主へ受取候證文へハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添候旨ヲ書載可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人へ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事

第十二條 質人年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フコト至ルトキハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ證文書替ヲ求ムルコト得ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等之レナキキハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘシ又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩等ノ爲メニ其地ノ幾分ヲ失フキハ變換ノ模様及ヒ殘

〔地所質入書入規則〕

存ノ大小ニ應シ規則ニ基ツキテ地券書替願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金石高ノ償ヲ爲スニ足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ增質ニ差入サセ證文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ增質ニ差入ヘキ地所物品等無之キハ是亦訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘキ事

但貸主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年限中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主(金主)ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主地主承諾ノ證書ヲ取リ其管轄廳ヘ可願出尤モ入費ハ借主ヨリ償フヘキ事

但借主起返ノ入費ヲ出スヲ能ハサルキハ證書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤モ相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準シ當七月限リ證文相改メ可申事

右ノ通相定メ候事

第十五條 是迄質入書入ニ致置候分ハ前約ノ年期据置不苦尤證文面等前文規則ニ觸候廉ハ總テ相改メ可申事

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三十一日前ニ期限ヲ過去リク

ル分ニテ債主ニ於テ貸金返済方ニ付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所々管ノ戸長役場ヘ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ與書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内與書割印ヲ受スシテ後日其證書ヲ以テ訴訟ニ及フトキハ質入書入ノ證據ニハ相立サルニ付裁判上糶賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事

(内)乙第三十三號 明治七年五月二日達

本年第六號公布地所質入書入規則第九條改正文中戸長ノ與印證印ハ戸長又ハ副戸長實印ヲ爲押割印ハ戸長役場印ヲ相用候義ト可心得候事

但役場印無之候ハ、彫刻申付ケ右出來迄ハ戸長實印ヲ換用可致事

(内)乙第七十八號 明治十一年十一月廿五日達

戸長職務ノ概目第五項ニ地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ與書加印ノ事ト有之右ハ七年當省乙第三十三號達ノ通與書證印ハ戸長ノ實印ヲ押割印ハ戸長役所印ヲ相用ヒ若シ數町村ニ戸長一員ヲ置クトキハ其役所印ノ冠字ハ戸長管理スル處ノ各町村名ヲ列記スヘシ

(内)乙第廿九號 明治十六年六月八日達

戸長印章ノ義ハ八年第百十號達判任官同様タルヘキ旨相達置候處布告達ニヨリ實印ヲ押捺スル分モ自今官印ヲ用フヘシ

〔地所質入書入規則〕

(丙)甲第六號 明治十八年三月廿三日達

戶長所有ノ地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスルキハ其次席ノモノ無之キハ隣町村戶長ヲシテ公證爲取扱來候處自今戶長ニ於テ成規ノ公證ヲナシ郡區長戶長役場ヲ兼ヌル區役所ハ府知事縣令之檢閱ヲ爲受候様可致事

但檢閱之證トシテ公證帳簿ト證書トニ郡區役所ノ割印ヲナスヘシ

(丙)甲第二號 明治十八年六月十九日達

地所質入書入建物船舶書入質ノ公證ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之旨今般太政官ノ裁令ヲ經候條爲心得此旨相達候事

○證印稅則 明治十四年五月廿五日第三十號布告

地券ニ記セシ

券狀一通ニ付

金高(十圓未滿)

三錢

金高(十圓以上貳百圓未滿)

千分ノ五 即十圓ニ付五錢

金高(貳百圓以上五百圓未滿)

壹圓

金高(五百圓以上千圓未滿)

壹圓貳十五錢

金高(千圓以上貳千圓未滿)

壹圓五十錢

金高(貳千圓以上五千圓未滿)
金高(五千圓以上壹萬圓未滿)
命高(壹萬圓以上)

貳圓五十錢

三圓七十五錢

五圓

左ニ掲グル者ハ券面代價ノ有無ニ拘ラス券狀一通ニ付三錢トス
代換授與并ニ水火盜難ニヨリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及ヒ開墾歛下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆地ニ合併等ニテ所有主變換セサル地券書換

(大)第六十八號 明治十八年九月廿四日達

自今地券證印稅ハ地券書換願書進達ノ際直ニ上納セシムヘシ

但明治十三年五月三十一日舊地租改正事務局總裁連署達ハ取消ス

(券數ノ區畫中拾圓以上二百圓未滿ノ部ニ限リ券面通計ノ地價額ヲ傍記スヘシ)

從明治何年何月何年何月地券證印稅表

全 用紙美濃紙

郡區名	區	分	壹	通	當	券	數	稅	金
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[證印稅則]

區	郡	何												
		拾圓未滿	代換	水火盜難	荒地其他無代價	荒地起返開墾	荒地下年期明分合筆	二百圓未滿	二百圓未滿	五百圓未滿	一千圓未滿			
計		三	全	全	全	全	五分ノ五即チ十圓ニ付	五	一	一圓二十五錢	一圓五十錢	二圓五十錢	三圓七十五錢	五

右者明治何年從何月至何月地券證印稅表面之通相違無之候也

年 月 日

何府縣收稅長何某殿

何郡區長何 某印

●山形縣ヨリ證印稅徵收ノ義ニ付大藏省へ伺 明治十七年三月七日

地所賣買讓與等ニテ地券へ名記入ノ義出願ノ節破損或ハ虫喰等ニテ記入スへキ様無之場合ニ於テハ直ニ讓受人名面ニ書換相渡賣買ニ係ル證印稅ノ徵收スへキ哉目下所有者名面ニ書換ノ義出願爲致更ニ賣買手續ヲナシ證印稅ハ書換并ニ賣買ニ係ル兩稅ヲ徵收スへキ義ニ有之候哉判然タル明文無之依テ聊疑義ヲ生シ候ニ付相伺候也

指令 明治十七年三月十八日

當證印稅徵收スへキ義ト可相心得事

●兵庫縣ヨリ證印稅徵收方ノ義ニ付大藏省へ伺 明治十七年四月廿三日

戶主死亡跡家督相續シ地券書換ノ後乙其相續不當ナリトシ出訴裁判ノ末乙相續人ニ確定シ地券書換出願セハ普通代替讓與ノ例ニ據リ印稅徵收シ然ルヘキヤ又ハ甲相續ノ際相當ノ手續ヲ經テ書換タル地券ナルコ其後彼我ノ争ヒヨリ得タルヲ以テ親族讓與ノ例ニ據リ印稅徵

〔證印稅則伺指令〕

收シ然ルヘキ哉

指令 明治十七年
四月廿三日

前段申出ノ通

明治十六年
月第六號

全八年 月

第九號

○建物書入質規則

明治十七年九月三十日
第四百十八號布告

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘキ證據トシテ(貸主預ケ主)ニ對シ引當トナス所ノ建物ノ圖面ト證文トニ戸長ノ公證ヲ受ケタル者ヲ(貸主預ケ主)ニ渡シ置キタル建物ヲ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルトキハ書入質證文ニ自身持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建アルトキハ書入質ヲ爲スモノ其ノ地主ニ請ヒ其地主ヲシテ貸地タルヲ證スルノ與書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ與書ナキ證文ハ書入質ノ効ナキコト付書入質ナキ借用證文ト看做スヘシ

但官有ノ借地ニ建テ在ルトキハ其所屬管廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ證スルノ與書ヲ受ケルヘシ

第三條 金穀ノ(借主預リ主)ヨリ建物引當ノ證書ト建物ノ圖面トヲ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ與書割印ヲ受ケルヲ公證ヲ受ケルト云フ

第四條 建物書入質ノ證文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ黒引黒字ト爲スヘシ(第一號書式ヲ見合スヘシ)

第五條 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ證文ノ與書割印ヲ願出ルルキハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ與書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書割印ヲ押ヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長與書割印スヘシ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル證文ニテ前條ノ規則ニ背キ公證ヲ受ケサル者ハ書入質ノ効ナキコト付書入質ナキ(借用預リ)證文ト看做スヘシ

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用證文又ハ預リ證文ニハ必ス返濟ノ期限ヲ定ムヘシ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ効ナキコト付書入質ナキ(借用預リ)證文ト看做スヘシ

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ證文ヲ所持スルモノハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀(借主預主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ムヘシ若シ(借主預主)又ハ其相續人證文ヲ改メサルトキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發達ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

〔建物書入質規則〕

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用證文又ハ預リ證文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至ラサルトニ論ナク明治九年二月廿八日迄ニ金穀(借主預リ主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ムヘシ若シ(預リ主借リ主)又ハ其相續人證文ヲ改メサルトキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條 建物が在ルノ地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タル日ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何(府縣)管下(住居寄留)何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス證文ニ公書スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシキハ公書ノ差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ

第十一條 第八條及ヒ第九條ニ規則ニ背キ明治九年五月一日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀(借用預リ)證文ヲ所有スル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ(借用預リ)證文ト看做スヘシ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコハ嚴禁ナレトモ若シ第一番ノ金主ハ書入

質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ニ又其建物ヲ書入質ニ借添ト爲スコトヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右建物雜賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其金數ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘク若シ雜賣ノ金高チ以テ先第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其金數第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品雜賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ但シ第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ證文ニハ建物代價ノ余分ヲ見込ニ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシキハ建物ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ趣キヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ(第三號書式ヲ見合スヘシ)

第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シテ代リ質ヲ受取ルコトヲ求メテ爲スコトヲ得ヘシ

若シ借主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルキハ借用金穀返濟期限未滿内ト雖モ

〔建物書入質規則〕

貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ムルノ訴ヲ爲スヲ得ヘシ

○建物賣買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ爲サント欲スル者(賣渡讓渡)

證文ト圖面トニ戸長ノ與書割印ヲ受可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ(賣渡讓渡)證文ニハ其地主ヨリ請ヒ地主ヨリ貸主タルヲ證スルノ與書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受可シ

但官有ノ借地ニ建テ在ルキハ其所屬管廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ證スルノ與書ヲ受クヘシ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受ケテ爲サント欲スルモノハ自身又ハ其代人建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其賣渡讓渡ノ證文ヲ受取リ然シテ後ニ

戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長ノ面前ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ(買受讓受)タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日并ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ(第四號書式ヲ見合スヘシ)

第三條 戸長役場ニ於テ建物賣買讓渡證文ノ與書割印トヲ願出ルキハ是亦建物書入質記載帳ニ記入スルヲ及ヒ證文ニ與書シ圖面ニ割印スルヲ建物書入質規則第五條ニ準シ公證ヲ與フルノ手續ヲ爲スヘシ

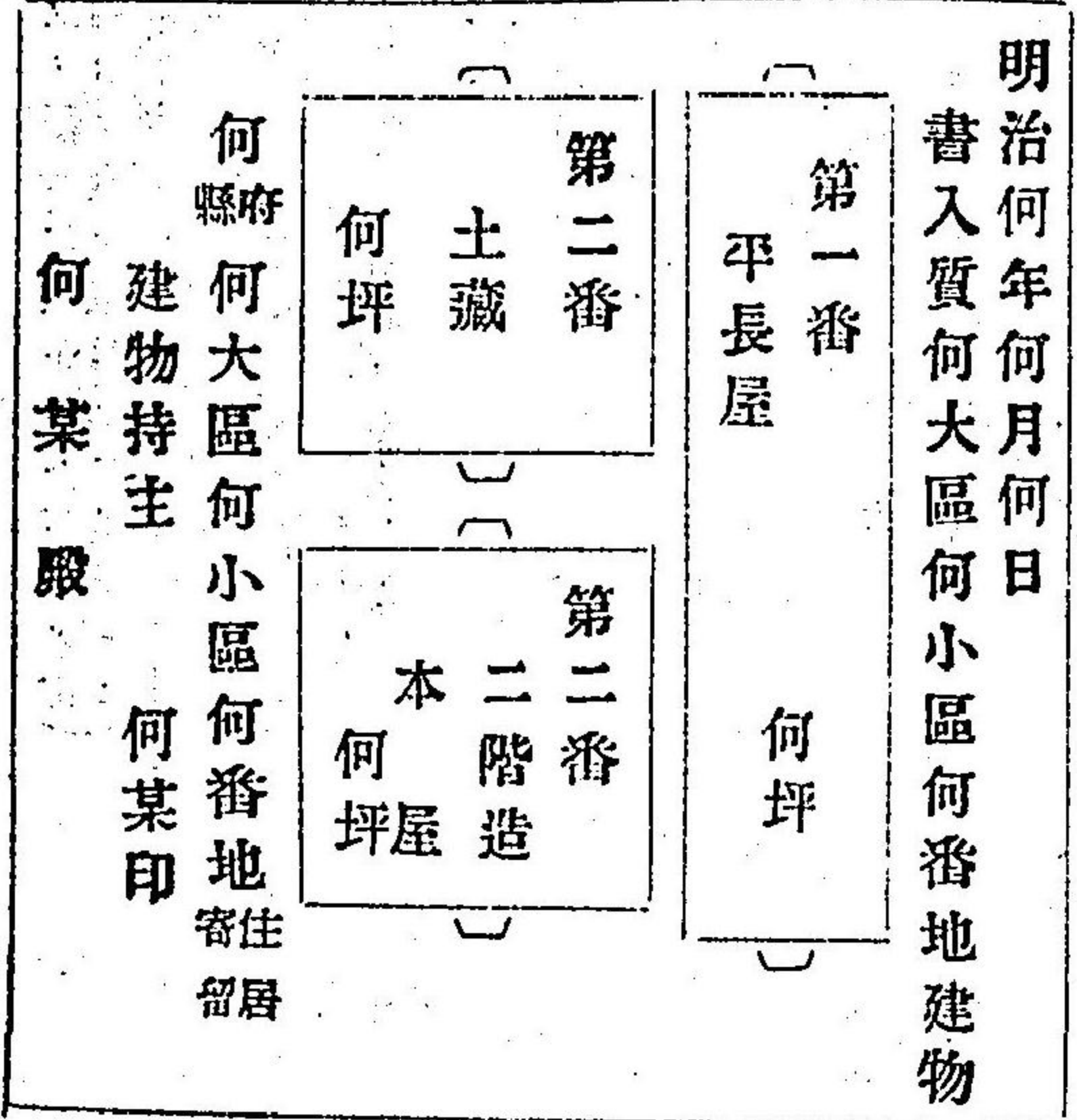
第四條 書入質ト成リタル建物ヲ(買受讓受)タル者ハ其建物ノ書入質ト爲リタル金數ノ償

却チ引受クヘシ但シ(買受讓受)人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スルキハ書入質ノ金數ノ償却チ引受クルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受タル相續人ハ前戸主ヨリ讓受タル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却チ引受ヘシ

第一號 書式(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ウヘシ) (括弧内朱書)

建物ノ圖ヲ引シニ
ハ紙ノ上下左右ト
モ點線ノ外一寸ヲ
明ケ置クヘシ



〔建物賣買讓渡規則〕

譬へハ圖ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入質ト爲スルハ第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質ト爲スヲ證文ニ記入シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ(但シ圖面ノ寫一枚ヲ戸長役場ニ出シ置クヘシ)

戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公證ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公證猶豫ノ義申立ル者アルキハ其裁判ヲ執行シ得ヘキ迄公證ヲ爲スヘカラス

○第五號 明治十七年三月十七日達

明治十五年十二月第六十號布告ハ勸解又ハ刑事告訴中ナルヲ以テ公證猶豫申立ル者アル場合ニモ適用スヘキモノトス

●茨城縣ヨリ戸長公證猶豫ノ義ニ付司法省ヘ伺 明治十六年八月廿日

通常貸借訴訟事件(身代限確定前)ニ付原告請求ニ因リ被告所有ノ不動産客年第六十號ニテ質入書入等ノ際裁判官ニ於テ特ニ公證猶豫セシムル場合有之候哉至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

指令 明治十六年九月三日

伺ノ如キ場合ニ於テ裁判官ハ事宜ニ依リ假リニ被告ノ財産ヲ差押ヘシムルコトアルヘキヲ以テ其差押ヘタル不動産ニ對シテハ戸長ニ於テ質入書入等ノ公證ヲ爲スヘカラサルハ勿論ナル義ト心得ヘシ

●三重縣ヨリ地所建物公證猶豫ノ義ニ付司法省ヘ伺 明治十六年十二月廿五日

第一條 客年第六十號ヲ以テ戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公證ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公證猶豫ノ義申立ル者アルキハ其裁判ヲ執行シ得ヘキ公證ヲ爲ス可ラサル旨公布相成候處裁判々決後明治十年第十九號布告控訴上告手續第四條ニ依リ事理ヲ熟考スル時日即チ七日間ハ其執行ヲ停メ七日經過後ハ同第六條ニ依リ始審裁判所ニ控訴ノ届出ヲ爲ス者ヲ除キ其他ハ直ニ執行セラル、順序ニ候哉果シテ然ラハ裁判々決後確證ヲ以テ被告人ヨリ公證ヲ申出ルル事理ヲ熟考スル七日間ハ戸長ニ於テ公證ヲナスヘカラサル義ニ候哉

第二條 若シ果シテ前條ノ如クナレハ裁判々決後七日ヲ經過シ始審裁判所ニ控訴ノ届出ヲ爲シ若クハ商事ニ係リ急速ヲ要シ七日内ニ控訴ノ届出ヲ爲シ裁判執行ヲ停止シタル確證アル場合ハ戸長ニ於テ公證ヲ與ヘス又該控訴ノ届出ヲ爲サル間ハ控訴期限二ヶ月以内ト雖モ渾テ公證ヲ與フヘキ義ト心得可然哉

指令 明治十七年一月廿九日

伺ノ趣控訴ヲ爲シタルキハ始審ノ裁判執行ヲ爲シ得ル迄公證ヲ爲サルハ勿論控訴ヲ爲サルキト雖モ控訴上告手續第五條控訴期限内ハ公證ヲ猶豫スヘキ義ト心得ヘシ但裁判所ノ裁判執行ノ命令書ヲ證トナシ公證ヲ請求スルキハ本文ノ限ニアラス

〔建物質入書入規則伺指令〕

第三編

第一纂

一 行政警察諸規則ノ部

○正式勅使参向内規 明治十二年十一月十二日
(内) 番外達

勅使参向ノ節内規別紙之通候條自今宮内省ヨリ通報次第警備方可取計此旨相達候事

第一條 此内規ノ管スル期限ハ詔書祭文ヲ受ケ皇居ヲ出ルヨリ復命迄ノ時間又各地方ニ於テハ其當日旅館ヲ出ルヨリ旅館ニ歸ル迄ノ時間トス

第二條 使並ニ隨員大禮服ヲ着用ス

第三條 詔書祭文ハ錦ノ袋ニ納テ隨員首ニ掛ク若シ隨員ナケンハ勅使自ラ之ヲ捧持スル等ハ總テ時宜ニヨル

第四條 下乗ハ皇族下乗所ニ於テス

第五條 乗用ハ馬車又ハ騎馬タルベシ

第六條 警備トシテ警部四騎ヲ付スニ騎前ニアリニ騎後ニアリ

〔正式勅使参向内規〕

第七條 途上常備ノ巡查ヲシテ一層注意セシム

以上

○警察聯合會規則 明治十五年六月二十日 (内) 番外達

警察聯合會規則別冊之通相定候條此旨相達候事

第一條 聯合會ハ警察ノ氣脈ヲ通シ事務ノ便否ヲ議スルモノトス

第二條 議件并ニ議事規則及ヒ開會ノ場所ハ會員ノ協議ヲ以テ定ムヘシ

第一區

警視廳 神奈川 千葉 茨城 栃木 群馬 埼玉 山梨 新潟 長野 静岡

第二區

大坂 京都 滋賀 愛知 三重 岐阜 石川 福井 和歌山 兵庫 徳島 高知

愛媛 廣島 岡山 鳥取 島根 山口

第三區

熊本 長崎 福岡 大分 鹿兒島

第四區

宮城 福島 山形 秋田 青森 岩手 函館

但 札幌根室二縣ハ第四區へ沖繩縣ハ第三區聯合會へ便宜臨席スルヲ得

第四條 聯合會ハ毎年春秋二季ニ開ク會期ハ一會十日以内トス

但區内ノ協議ヲ以テ春秋ノ内一回開クモ妨ケナシ

第五條 會長ハ開會地方ノ長官トス 東京府ハ若シ事故アラハ書記官 東京ハチ以テ之ニ代フ可シ

第六條 會員ハ各地二名ツ、東京ハ警視警察使ノ内其他ハ警部長警部トス若シ警部長事故アルトハ警部二名參會スヘシ

第七條 開會期限ハ開會地方ノ長官ヨリ内務省及ヒ聯合區内へ三十日前 郵便發着間ノニ報告ス可シ

第八條 閉會後議事ノ要領ヲ會長ヨリ内務卿へ申報ス可シ

第九條 警保局員ヲ派遣臨會セシムルコトアル可シ尤モ會員ノ數コ入レス

○中央衛生會職制 明治十二年十二月廿七日 第五十四號達

中央衛生會職制及ヒ事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事

一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

會長 一名

〔中央衛生會職制〕

- 副會長 一名
- 委員 十一名
- 醫員 二名
- 化學家 二名
- 工學家 二名
- 衛生局長 一名
- 內務書記官 一名
- 警保局長 一名

以上十八名ヲ以テ定員トス

- 一 會長及委員ハ特選ニシテ副會長ハ委員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定ス
- 一 會長ハ本會議事ノ章程及ヒ附則ニ從ヒ議事ヲ整頓シ其議定セルモノヲ內務卿ニ具申ス
- 一 副會長ハ會長缺席ノ時總テ其事務ヲ代理ス
- 一 委員ハ議事章程及ヒ附則ニ從ヒ諸議案ヲ議スルヲ掌ル
- 一 書記數員ヲ置キ議事ヲ筆記シ及ヒ文案計算翻譯等ノ事ヲ掌ラシム

○中央衛生會事務章程

- 第一條 中央衛生會ハ內務卿之ヲ管理シ全國衛生事務ニ關スル諸件ヲ審議スル所トス
- 第二條 布告公達ノ衛生ニ關スルモノハ其發行前官府ノ諮詢ヲ受ケ之ヲ議スルヲ得ヘシ
- 第三條 本會ハ衛生各般ノ事項ヲ地方官ニ尋問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルヲ得

第四條 本會ニ於テ議定セル事件ハ之ヲ內務卿ニ開申ス

第五條 通常會ハ少クモ毎月一回之ヲ開シモノトス臨時會ハ內務卿或ハ會長ノ指圖ニ由テ之ヲ開キ又ハ委員三名以上ノ請求ニ依リ之ヲ開クヲ得

第六條 本會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第七條 委員二名以上同意ノ所見アレハ之ヲ會議ニ付シ其可ト決スルモノハ本會ノ意見トシテ內務卿ニ建議スルヲ得

第八條 本會議決ノ事項中公告スヘキモノハ本會ノ名ヲ以テ之ヲ一般ニ公告ス

第九條 本會議事章程及附則ハ內務卿ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

○地方衛生會規則 明治十二年十二月廿七日

第五十五號達

第一條 本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

但地方ノ實況ニヨリ本條定限ノ外別ニ會員ヲ要スルキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ増置スル

〔中央衛生會事務章程〕〔地方衛生會規則〕

一ヲ得

醫師三名乃至五名

府縣會議員三名

公立病院長

公立病院藥局長

衛生課長

警察官一名

第三條 本會ハ府知事縣令ノ管理ニ屬シ其委員ハ知事令之ヲ命ス

但醫師ハ府縣會議員ヲシテ管内ノ開業醫師ヲ公撰セシメ府縣會ヨリ出ス所ノ委員ハ其府縣會ニ於テ之ヲ公撰セシム

第四條 會長ハ府知事縣令之ニ任シ副會長ハ委員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定ス

第五條 公撰員ノ在任ハ滿二ケ年トナシ滿期毎ニ之ヲ改撰ス

但前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第六條 委員ノ外書記一名若クハ二名ヲ命シ本會ノ雜務ヲ處辨セシム

第七條 委員ハ俸給ナシ但開會ノ地ヲ距ル三里以外ニ住スルモノニハ相當ノ旅費ヲ給シ又

非職無給ノ者コハ相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第八條 本會ハ少ナクモ毎月一回之ヲ開クモノトス

但臨時又ハ至急ヲ要スル事件アル時ハ會長ノ招集ニ應シテ之ヲ開キ又委員半數以上ノ請求ニ因テ之ヲ開クコトヲ得

第九條 本會ニ於テ議定スヘキ事件左ノ如シ

一衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

二府縣ニ於テ發行スヘキ衛生上ニ關スル布達ノ草案

三府知事縣令ヨリ發セル議案并ニ中央衛生會內務省衛生局及ヒ郡區町村衛生掛ノ尋問ニ係ル事項

第十條 本會ハ各郡區役所ヨリ府縣廳へ上申セル衛生上ノ諸報告等ヲ檢察スヘシ

第十一條 本會ハ地方ニ實施スヘキ衛生事項ニ就キ其考案ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十二條 本會ハ該地方ノ衛生上ニ關スル實況ヲ檢察スルカ爲メ擔當吏員ノ派出ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十三條 本會ノ議事筆記ハ時々之ヲ內務省ニ報告スヘシ

○行政警察規則 明治八年三月二十九號達

〔行政警察規則〕

第一章 警察職務之事

- 第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルコアリ
 - 第二條 各府^{東京府}除ク縣長官其事務ヲ提掌警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム
 - 第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
 - 第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
 - 第二 健康ヲ看護スル事
 - 第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
 - 第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事
 - 第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アル時其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フトキハ檢事章程並司法警察規則ニ照スヘシ
 - 第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可カラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可カラス
- 第二章 警部勤務之事
- 第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要ス可

- 第二條 凡ソ布告布達ハ其趣旨ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ
- 第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並巡查ノ勤怠正否ヲ察ス可シ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要ス可シ
- 第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告ス可シ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知ス可シ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

- 第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若シハ照會スルヲ得可シ
- 第六條 達又ハ訊問等ノ事アルコト付テハ勅奏官及ヒ華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出ス可シ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出ス事ヲ得可シ
- 第七條 違警犯人ハ其犯罪ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分ス可シ

第三章 巡查勤方之事

- 第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナス可キ事
- 第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フ時ハ何時コトモ乞フ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

〔行政警察規則〕

但街路其外コテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フ可シ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護ス可シ

第四條 持区内ノ大小往來筋及ヒ市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知ス可シ

第五條 持区内ノ戸口男女老幼及ヒ其職業平生ノ人トナリニ至迄テ注意シ若シ無産體ノ者集合スルカ又ハ怪敷者ト認ル時ハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察ス可シ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知ス可シ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シ已ムヲ得サル事アル時ハ自ラ行テ尋問ス可シ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知ス可シ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ヘ報知ス可シ

第九條 非番タリトモ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ル時ハ速ニ之ヲ取除カシム可シ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及ヒ不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナス可シ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有ノ建造物破損スル時ハ警部ニ報知ス可シ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラハ時ハ丁寧ニ教示ス可シ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ヘ預ケ之ヲ警部ヘ報知ス可シ若シ其居所分明ニシテ其持区内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナス可シ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制ス可シ

第十六條 放レ馬牛アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ク可シ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス可シ

第十八條 路上狂癪人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス可シ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナス可シ

第二十條 道路河渠ニ死屍アル時ハ其模様ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受ク可シ

〔行政警察規則〕

第廿一條 獸畜ノ死骸アル時ハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナス可シ

第廿二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ墮造腐敗ノ品アルヤヲ常ニ検査ス可シ

第廿三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラス可シ

第廿四條 怪キ者ヲ見認ル時ハ取糺シテ様子ニ依リ持区内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ
差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラズ

第廿五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助
ケ消防ノ事モ勤ム可シ消防人巳ニ集ルニ至レハ勉メテ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意ス可シ

第廿六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出ス可シ又官廳其他區戸長等
ノ宅ハ文書ヲ第一ニ取出ス可シ

第四章 巡查心得ノ事

第一條 専ラ行儀作法ヲ正シシ威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛
事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉ス可シ決シテ職外ノ事ヲ議ス可カラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ヲ怠ラ
サル様互ニ獎勵ス可キ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤モ
後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心得事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキモノハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加
ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レヤ敷儀
決シテ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金諱等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ニ對シ戯ケ間敷儀決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他官致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ警部ニ具申ス可キ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ
取扱フ可キ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致問敷候ハ勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲弄スルコトアリト雖モ必ス耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯ハシ争鬪ケ問敷儀致問敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシテ金銀物品ヲ受ルコト有ル可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラスル事

第十九條 毎朝衣服冠物其他器械ヲ検査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

○司法警察規則 明治九年四月 (司)第四十八號

第一章 總則

第一條 凡ソ司法警察ノ爲ニ止ムヲ得サル處分ニ於テハ人ノ身體ヲ拘留シ居宅ニ進入シ物料ヲ押ヘ書簡ヲ開クコトヲ得而シテ司法警察ノ處分ヲ行フハ司法警察官タル者若シクハ司法警察官ヨリ委任ヲ受ケタル者ニ限ル可シ

第二條 司法警察ノ處分ハ罪犯ヲ探索檢視シテ事證ヲ取リ各裁判所ニ付スルニ在リ

第三條 司法卿ノ命ヲ受ケ司法警察ノ事ヲ行フノ官左ノ如シ

第一 檢事及檢事補 第二 地方警部及ヒ警部補

第二ノ警察官吏ハ其違警犯ニ於テハ司法警察ノ全權ヲ有スルヲ除クノ外其他ノ罪犯ニ於テハ檢事補助ト心得檢事檢視ノ職務ヲ攝行スルコトヲ得

但檢事派出ナキノ縣ハ地方官ノ命ヲ受ク可シ

警視廳長官及ヒ地方長官(東京府ヲ除ク)急速ノ時ニ於テハ直ニ司法警察ノ事ヲ專行シ而後檢事ニ報告スルコトヲ得

但檢事派出ナキノ府縣ハ地方官ノ内常ニ檢事ノ事ヲ行フ

第二章 檢事司法警察職務

第四條 檢事ハ違警犯ヲ除クノ外總テ罪犯ニ付テノ告訴被害人自ラ訴告發他人ヨリ訴テ受取リ及ヒ自ラ現行犯ヲ檢視シテ檢視明細書ヲ作り若クハ他ノ司法警察官ノ檢視明細書ヲ受取リ之ヲ相當ノ裁判所ヘ訴ヘ裁判ヲ求ム可シ

第五條 犯罪ノ地ノ檢事又ハ犯人住所及ヒ寄留地ノ檢事又ハ犯人ヲ見出シタル地ノ檢事ハ並ニ前條ノ職務ヲ行フ事ヲ得

〔司法警察規則〕

第六條 重罪犯若クハ犯情繁雜ナル者ハ檢事ヨリ糾問判事ニ付シテ下調ヲ請フ下調濟ノ後檢事更ニ證據文書ヲ受取リ裁判所ニ訴ヘ裁判ヲ求ム可シ

第七條 糾問判事ノ下調ニ於テ檢事不服ナルキハ再ヒ他ノ糾問判事ニ下調ヲ求メ或ハ直ニ判事ニ附シ裁判ヲ求ムル事ヲ得

第三章 警部司法警察職務

第八條 現行犯罪ニ於テハ警部ノ先ツ事犯アルコトヲ知タル者直ニ犯所ニ至リ檢事ノ行フ可キ一切ノ事ヲ行フ可シ

第九條 若シ一事件ニ付檢事ト警部ト同時ニ檢視ノ爲メ犯所ニ至リタル時ハ警部之ヲ檢事ニ讓ル可シ

但檢事ハ警部ヲシテ引續キ檢視ヲナサシムルコトヲ得

第十條 檢事及ヒ糾問判事ヨリ警部ニ委任シ自己職權内ノ一部ヲ行ハシムル時ハ警部ハ之ヲ奉行スヘシ

第十一條 警部ハ受取ル所ノ告訴告發ノ文書若シクハ現行犯ノ檢視明細書及ヒ其他ノ書類ヲ速ニ檢事ニ送り檢事ノ處分ニ供フ可シ故無ク滯留拘留スルコトヲ得ス

第四章 司法警察官現行犯處分

第十二條 現ニ行フ罪犯及ヒ現ニ行ヒ終リタル罪犯ヲ現行犯ト云衆人指名シテ其犯主タルコトヲ供傳シ若シハ兇器文書其他罪犯ノ證據タルヘキ物ヲ携帯シ犯人ト思察スヘキキハ犯罪ヨリ時日ヲ過キタリト云ヒ亦現行ニ准ス

第十三條 現行ノ重犯アリテ巡查見知シタルキハ急飛テ以テ司法警察官ニ報シ犯人ヲ追拿シ屍體若シハ兇器物具一切ノ證據ヲ看護シ原態ヲ保存セシメ他人ノ擾動ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シテ以テ司法警察官ノ來着ヲ待テ司法警察官ハ其最先ニ報知ヲ得タル者即刻犯所ニ臨ミ檢視處分ヲ行フヘシ

但司法警察官ノ所在遠隔ナル者ハ巡查直ニ檢視處分ヲ行ヒ司法警察官ニ報スルコトヲ得其報ヲ得タル司法警察官疾病故障アルトキハ巡查ニ委任シテ處分ヲ終ヘシムルコトヲ得

第十四條 司法警察官ハ犯罪ノ情狀ト犯所ノ模様ヲ視察シ行兇被兇見證人ヲ問供シ證據物件ヲ押ヘ而シテ檢視明細書ヲ作ル之ヲ檢視處分トス

第十五條 司法警察官ハ其場ニ居合セタル諸人ヲシテ檢視終ル迄ノ間事犯ノ場所ヲ出去ルコトヲ禁シ若シ背シモノアレハ直ニ拘留シテ判事ニ付スルコトヲ得

第十六條 司法警察官ハ巡查被兇人見證人近隣人及ヒ事犯ノ前後ノ事情ヲ知リタル者等一切關係ノ人ヲ喚ヒ其供述ヲ聞キ各人ノ口書ヲ作り之ニ花押若シクハ實印セシム

但花押スルコト能ハス又實印ナキ者ハ拇印セシム

第十七條 現行犯ノ證據アルニ於テハ被告人ヲ拿捕スルヲ得而シテ直ニ之ヲ糾問シテ口書ヲ作り被告人ヲシテ花押若シクハ實印若シクハ拇印セシム被告人逃走シタル時ハ司法警察官直ニ巡查ニ命ジテ追捕セシム

第十八條 司法警察官ハ差押ヘタル兇器贓物文書其他犯罪ノ證據タル可キ物件ヲ被告人ニ示シ其答辭ヲ取り並セテ口書ニ記入ス可シ

第十九條 差押ヘタル物件ハ明細書ニ記入シ其物件ヲ封印シ若シクハ器物ニ納レテ之ヲ封印ス可シ

第二十條 司法警察官ハ技術ノ人醫師分析師建築工彫刻工ノ類ヲシテ司法警察官ノ面前ニ於テ驗察セシメ證書ヲ作り花押若シクハ實印セシムルヲ得二人以上俱ニ驗察シタルハ隔別ニ證書ヲ作ル可シ

第二十一條 司法警察官檢視ノ處分已ニ終リ罪證ヲ得ル時ハ被告人ヲ勾留シ若シクハ保管シ其明細書及ヒ口書證人口書及證據文書物件ヲ合セテ速ニ判事ニ送り裁判ヲ求ム可シ

第五章 司法警察官非現行處分

第二十二條 現行犯ヲ除クノ外罪犯ヲ告訴若シクハ告發スル者アリ及ヒ警部ヨリ告訴告發ノ

文書ヲ送付スルアレハ檢事書類ヲ檢シ又ハ一應問訊シ其法律ニ觸ルモノト思察スル時ハ其文書ヲ具ヘテ糾問判事ニ送付ス可シ

但時宜ニ依リ第十七條第廿一條ノ規則ヲ通シテ用フルヲ得

○司法警察規則附錄 明治七年九月 第百廿八號達

外國公使及公使館屬員之事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻ス可カラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家族並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニ在ル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量ス可シ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備レ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ得テ後引出ス可シ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニ非ラス

第三條 內國人各公使館及ヒ書記官ニ備ハレ中其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ク可シ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ク可シ若シ途中ニテ或人ヲ引留其名籍ノアル所ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會テ遂ケタル後其處分ヲ施ス可

〔司法警察規則附錄〕

シ若シ其姓名簿記中ニアラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館へ同道シ右ノ如ク處置ス可シ

但重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分ス可シ
外國公使館之事

第四條 外國公使館内へハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入可ラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内へ匿入セシ等毫髪ノ間モ猶豫ス可カラサル時ハ其抱門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索ス可シ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ル可カラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降ス可キ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合せ而シテ其處分ヲナス可シ

外國公使屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行テ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタク時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館へ報知ノ上同館へ引渡シ又外務省へ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セン手續ヲ申可シ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可カラス或ハ屬員ノ内國

人ハ引留置即刻公使館へ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受ケルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省へ申可シ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省へ報知シ同館へ照會ヲ乞館主ニ引渡シテ要求シ其人ヲ受取リテ后之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムキハ其旨ヲ猶外務省へ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

○監視犯人取扱心得

第一條 監視ニ付セラレタル犯人送致アリタルキ通常監視ハ第一號特別監視ハ第四號ノ監視票ヲ下付シ又被監視者居住地へ送致スルハ第二號他方へ旅行スルハ第三號書式ニ依リ旅券ヲ付與スルモノトス

但シ他ノ地方ヨリ轉居シ來ル犯人監視票ヲ付與スルキモ亦本文ニ全シ

第二條 警察署分署ニ於テハ第五號第六號書式ニ依リ帳簿ヲ製シ置キ被監視者ノ住所氏名及監視ノ起算滿期罪名刑名等ヲ記入シ附則第二十三條ニ記載アル文書ト共ニ保存スヘシ
但シ他ノ警察署分署管内ヨリ轉居セシ者モ亦本文ニ全シ

第三條 監視ノ犯人事故アリテ轉居又ハ旅行スル事ヲ願出タルキハ取調ノ上正當ノ事由アリ

〔監視犯人取扱心得〕

ル者ハ許可スヘシ

第四條 附則第三十條第二項ノ場合ニ於テ犯人認印ヲ願出タルキハ旅券ニ滞在ノ日時場所ヲ記シ認印ヲ捺シ又第三十一條ノ場合ニ於テハ事由取調ノ上相違ナキモノハ疾病其他ノ證明書ヲ下付スヘシ

第五條 附則第四十一條ノ場合ニ於テ犯人財産ヲ治メ又ハ職業ヲ營マサルモ妨ケナキ者ト認ルキハ許可スヘシ

第六條 監視票水火災難損傷遺失セシ旨届出タルキハ取調ノ上新ニ下付スルモノトス

第七條 附則中書類ヲ遞送スルハ郵便ヲ以テシ犯人ヲ送致スルハ護送スルモノコアラズ

第八條 附則第三十六條ノ場合ニ於テ假ニ免監視ノ事ヲ上申セント欲スルキハ警察本署ヲ經由スヘシ

第九條 監視ノ期限満タルキハ監視票ヲ還納セシムヘシ

第十條 監視ノ犯人毎月二度警察署分署へ出頭スルハ凡ソ十日以上ノ隔^隔度^度全^全廿五日ニ一度出頭スアルヲ要スルノ類

第十一條 犯人認印ヲ受ル爲メ出頭セシキハ監視票ト帳簿ト照合シ雙方ニ認印ヲ押捺スルモノトス

第十二條 附則第二十五條ノ場合ニ於テ犯人海路旅行セント欲スルモノハ其乗船發着日數ヲ限定シテ旅券ニ記載スルモノトス尤モ該條第二項ノ書類到達セサル内犯人行着ノ見込アルキハ旅券ノ外ニ其旨副書スルモ妨ケナシ

但犯人行着地ヲ所轄スル警察署ノ不分明ナルキハ其事由ヲ記シ該縣警察本署へ書類ヲ送付スルモノトス

第十三條 他方ヨリ旅行シ來ル前條ノ犯人アルキハ居住ノ番地等書面ヲ以テ爲届出書類到達ノ後監視票ヲ下付スルモノトス

(内)乙第三十二號 明治十七年七月九日
刑法附則ニ從ヒ監視假免ハ警察官假出獄ハ典獄ヨリ其事實ヲ具シ直ニ上申致來候處自今其所屬長官ヲ經由スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

(内)第十九號 明治十五年三月廿二日
刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各應ニ於テ調製シ下付スヘシ此旨相達候事

但紙質堅紙ナルモノヲ用ウヘシ

原表竪四寸五分横七寸一分五厘

〔監視犯人取扱心得〕

表

罪質犯數

何年何月生
明治何年何月何年何ヶ月

千三百八

一此者何府縣何區郡何町村何某方へ旅行スルヲ許可ス

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一先方ノ地若シ途中滞在スルニ滞在スル日數何日間トス

一何年何月何日飯宅スルモノトス

先方ノ地若シ途中滞在スルニ到レハ旅券ヲ直ニ其地ノ

警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヲ得スシテ淹滞シ

タルハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ

請ヒ歸著シタルハ若シクハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ

副へ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

歸著シタルハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事
右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日

警察使何某

印

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某

印

認印表

某警察署

、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

〔監視犯人取扱心得〕

千三百九

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日

警察使何某

印

府縣ニテハ

何府縣警察署

警部何某

印

寸法上ニ全シ

特別監視表

何府何區何町何番地住又ハ寄留何某
子弟妻女同居

族籍

某

刑名刑期何年何月何日宣告
何年何月何日満期

附加監視何年何月何年何月何日起
何年何月何日満

假出獄何年何月何日許可

何年何月生
明治何年何月何年何ヶ月

特別監視何年何月何年何月何日起
何年何月何日満

特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一 毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ此
票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムヲ得
サル事故アリテ警察署ニ到ルヲ能ハサルキハ其事由ヲ
届出ツヘシ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許
サス

三 事故アリテ住居ヲ移轉セントスルキハ警察署ニ申請シ
許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

〔監視犯人取扱心得〕

四往復一日程ヲ過シル地ニ旅行スルヲ許サス

(重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルキハ左ノ一項ヲ附加ス)

自ラ財産ヲ治メ若シハ職業ヲ營マントスルキハ

刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ

受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日

警察使何某

印

府縣ニテハ

何府縣警察署

警部何某

印

認印表

初	一週	二週	三週	四週	一週	二週	三週	四週	一週	二週	三週	四週	一週	二週	三週	四週	一週	二週	三週	四週	
	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日
年	二	年	三	年	四	年	四	年	四	年	四	年	四	年	四	年	四	年	四	年	四
裏	月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月	一月

監視犯人取扱心得

第八條 若シ變死ノ屍ヲ檢スルニ決意ノ遺書アルハ平素書記スル所ノ筆跡ト符合スルヤ否ヤヲ閱シ其詐爲ニ出タルニ非ルヤヲ點檢スヘシ若シ親戚ヨリ下附ヲ乞フキハ其寫ヲ下附シ本書ハ領置シテ後證トナスヘシ

第九條 死傷人ト其場所ノ模倣トヲ熟檢シタル後醫員ノ申立ヲ聞キ第三號書式ノ如ク檢接書ヲ筆記セシムヘシ

第十條 若シ死者致命ノ原因確知シ難キ旨醫員申立ルハ明治十年第廿二號公布ニ依リ其事由ヲ具申シ許可ヲ得テ其部分ヲ解剖セシムヘシ

第十一條 見證人及ヒ親族又ハ朋友其他關係ノ者ヲ取糾スニハ被告人ノ素行及ヒ其禍害ニ因テ必要ト見込所ヲ逐次ニ取糾シ各自伸供スル所ヲ第二號書式ニ依リ筆記シ之レヲ本人ニ讀聞セ相違ナキヲ甘結スルハ各自ニ姓名ヲ筆記シ實印若クハ拇印セシム

但被告人獨身ニシテ親族ナキ隣佑ノ者ノ申立ヲ聞クコトアルヘシ

第十二條 若シ各人伸供スル所同一ナレハ連署スルモ妨ケナシト雖モ姓名ヲ筆記捺印スルハ第十一條ノ如ク行フヘシ

第十三條 若シ姓名ヲ筆記シ及ヒ捺印スルヲ肯セス又ハ姓名ヲ自書スルヲ能ハサル者ハ其由ヲ附記スヘシ

第十四條 縊死溺死等ニテ自死ニ係リ其形蹟疑フ處ナキ者ハ第四號書式ノ如ク始末書ヲ出

サシムルモ妨ケナシト雖モ若シ書記スル能ハサル者ハ檢視官ニ於テ其具供狀ヲ筆記シ本人ヲシテ捺印セシム等ハ第十一條ノ手續ニ由ルヘシ

但其書立全一ナルハ連署スルモ妨ケナシトス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ立會ノ村吏ヲシテ第四號書式ノ如ク與書ヲナサシムヘシ

第十六條 前數條ノ手續ニ依リ檢視ヲ終了シタルハ其親戚等ニ引渡シ埋葬セシムト雖モ

途中行斃レノ如キ本籍明瞭セサルカ又ハ他管下ノ者ナルハ假埋葬ヲナシ揭示若シクハ其所役場ニ照會スル等ノコトヲ村吏ニ達シ而シテ第五號若シクハ第六號書式ノ請書ヲ徴スヘシ

第十七條 若シ鬪毆等ニテ負傷スル者ハ親戚其他引取人へ交付シ全癒ノ上届出ヘキ旨ヲ達シ第五號書式ノ如ク受書ヲ徴スヘシ

第十八條 火災ノ警報アルハ直ニ其場ニ出張シ事由ヲ取糾シ放火ト認ムルハ被難人其他ヲ立會ハセ檢視ノ手續ヲ爲シ一面行兇人探偵ノ手順ヲ爲スヘシ

第十九條 凡放火ヲ檢視スルハ該家ノ居住人及ヒ隣人其他ノ見證人ヲ問ヒ火ハ家屋ノ何ノ部分ヨリ發シ何々ニ燃移リ放火ノ具ノ有無等詳細取調ヘシ

〔檢視規則〕

第二十條 官林其他官有ニ係ル樹木ヲ盜伐シタル者アルカ又ハ火災延焼シテ官有ノ樹木燒失シタルキハ木數及ヒ大小并ニ其場所ノ摸樣ヲ詳細檢視スヘシ

第廿一條 第十八條以下ノ檢視ヲナシタルキハ其場所ノ繪圖面ヲ徵シテ報呈書ニ添ル者トス

第廿三條 凡火災ノ檢視ヲ結了シタルキハ火場ノ取片付ヲ達シ第七號書式ノ如ク受書ヲ徵スヘシ

第廿三條 凡檢視ニ關スル一切ノ書類ハ字句改竄塗抹スルヲ禁ス若シ不得止改竄塗抹スルモノ及ヒ綴目ニハ本人ヲシテ捺印セシメ其紙尾ニ檢視官ノ官姓名ヲ署シ捺印スルモノトス

第一號書式

檢視報呈

明治何年何月何日(謀殺故殺鬪毆溺死瘞死)ノ訴ニ應シ速ニ出張又ハ衆人哄傳ニ依リ臨場(何々アルヲ目撃臨場)檢視ノ始末左ノ如シ

日時 明治何年何月日時事發見何日時出訴何日時臨檢ス

訴主 何縣下何國何郡何村何番地居住族籍職業何某或ハ長次男誰某本條目擊臨場ノハ省ク

本人 何縣下何國何郡何村何番地居住族籍職業何某或ハ長次男誰某又ハ住所姓名不知男女

相貌 丈ケ何々體何々職人體又ハ商人體等ヲ詳記スヘシ本條住所姓名分明ノハ省ク

年齡 何年何ヶ月又ハ何年位

事故 鬪毆謀殺殺溺瘞死等其死傷スル所為ヲ記ス

原由 前項ノ事故ヲ記ス假令ハ一時何々ノ事ニ誰某ト口論セシ末云々等

現況 其現況ノ有様ヲ記ス假設ヘハ橋際ニ下駄ヲ脱舍テアリテ堤上ノ草ヲ薙倒シタル如ク而シテ爰ニ一塊ノ鮮血ヲ見タリ屍ハ水底ニアリシヲ流下セソフテ虞リ發見人誰

某繩ヲ以テ橋杭ニ結付置ケリ云々

創痕 身體中疵ノ長短淺深巾ケ所等ヲ記ス

容體 傷者即チ今ノ狀ヲ記ス本條死者ヲ檢スルハ省ク

屍狀 死體ノ肉色等ヨリ四肢屈伸ニ至ルマテ詳記スヘシ本條傷者ヲ檢スルハ省ク

所持 死傷者所持スル物品金員等ヲ記ス

兇具 行兇ノ用ニ供シタル器物ヲ記スヘシ假設ヘハ刀壹本何々ノ拵ニシテ長何寸其他何

々ナリ而シテ切先或ハ鉋元ヨリ何寸許ノ所ニ何々シタル血痕アリ其他何々等

參視 官姓名 認員姓名 村吏姓名

〔檢視規則〕

畢テ醫員發見人見證人親族隣佑其他關係ノ者ヲ取糾シ各申供スル處ヲ筆記シテ讀聞セタルニ相違ナキヲ甘結シテ各自ニ署名捺印シ（取糾スニ各自別紙ノ始末書ヲ出シテ事實ニ相違ナキ旨ヲ表シ）（異見ノ廉ナク元全ク何々ヨリ發リ事茲ニ至ルモノト見据タリ然レモ各自申立符合セサルハ全ク誰某其罪蹟ヲ隠蔽セント認メタリトテ之レヲ引致シ）（「死」「傷」者ハ親族「村吏」へ交付シ）（該犯者ハ「追跡」「探偵」中ニ有之候此段報呈候也）
年月日
官姓名印

長官宛

追伸一件書類相添候也

第二號書式

族籍職業

姓名

年齢

一自分儀何々其申供スル處ヲ詳細記入スヘシ

右ノ通聊相違無之候

年月日

右姓名印

第三號書式

官姓名印

死檢按書

族籍職業

姓名

年齢

郷貫氏名不知

何年位男
女

頭部 首ヨリ上ノ狀ヲ記ス假令ヘハ兩眼開祛面色紫赤ナリ等 臀部 臀腰ノ邊ニ係ル狀
同前 背部 背部ニ係ル狀同前 腹部 肚腹ニ係ル狀同前 四肢 手足ニ係ル狀同前
病名 病死ヲ檢スルキニ限リ用ユ 因由 病者ナレハ其由ノ起ル所ヲ記シ傷死者又ハ傷者ナレハ致命不致命所且疵ハ金創カ又ハ打創カ或ハ瓦礫等ニ觸レタルモノカヲ詳記スヘシ 徴候 經過 施療治療ヲナシタル 豫後 生命ノ存亡若シハ癡篤疾ニ至ルカノ否ヲ記載ス
右檢按（又ハ施療）ノ通相違無之候也

〔檢規規則〕

年月日

肩書

醫員

姓名 印

官姓名 印

第四號書式

始末書

族籍職業

姓名

年齡

郷貫氏名不知

何年位男

右ノ者何年何月何日於何所何々致候ニ付爲御檢視御出張相成候依テ私共見聞之始末左ニ云々其事由テ詳細記載スヘシ
右ノ通相違無之候依テ此段連署ヲ以テ申上候也

族籍職業

年月日

姓名 印

全

前書ノ通申立異見ノ廉無之候依テ致與書候也

肩書戸長

年月日

姓名 印

姓名 印

第五號書式

受書

族籍職業

姓名

年齡

右死體負傷者御檢視濟ノ上御引渡相成正ニ受取申療養中私共ニ御預相成全愈ノ上ハ其旨可届出御申達承知奉畏候

族籍職業

姓名 印

年月日

〔檢視規則〕

第六號書式

受書

官姓名 印

族籍職業

姓名

年齡

鄉貫氏名不知

何年位男

右ハ今般御檢視濟ノ上死體假埋葬取計本人存生中申立シ本籍へ照會致シ三十日間揭示致シ日限ニ至リ尋來ル者無之節ハ其旨可届出旨御申達承知奉畏候仍テ御受書如件

年月日

戸長 姓名 印

官 姓名 印

第七號書式

受書

族籍職業

姓名

年齡

右ハ何々家屋放火ニ遭ヒ燒失致シ候ニ付御檢視濟ノ上灰取片付御申達承知奉畏候仍テ御受書如件

年月日

右 姓名 印

官 姓名 印

○檢視心得

第一節 臨檢心得

第一條 凡檢視ニ臨ムモノハ先ツ身體格ノ名稱及ヒ其致命所不致命所ノ區別等ヲ知ラサル可ラス故ニ茲ニ其大略ヲ記ス

屍格 仰面致命處

頂心 兩耳竅 偏左 咽喉 偏右 胸膈 顛門 兩乳 額顛 心下 額角左右

兩脇 兩太陽穴 臍肚 肚腹 腎囊婦人產門

仰而不致命處

〔檢視心得〕